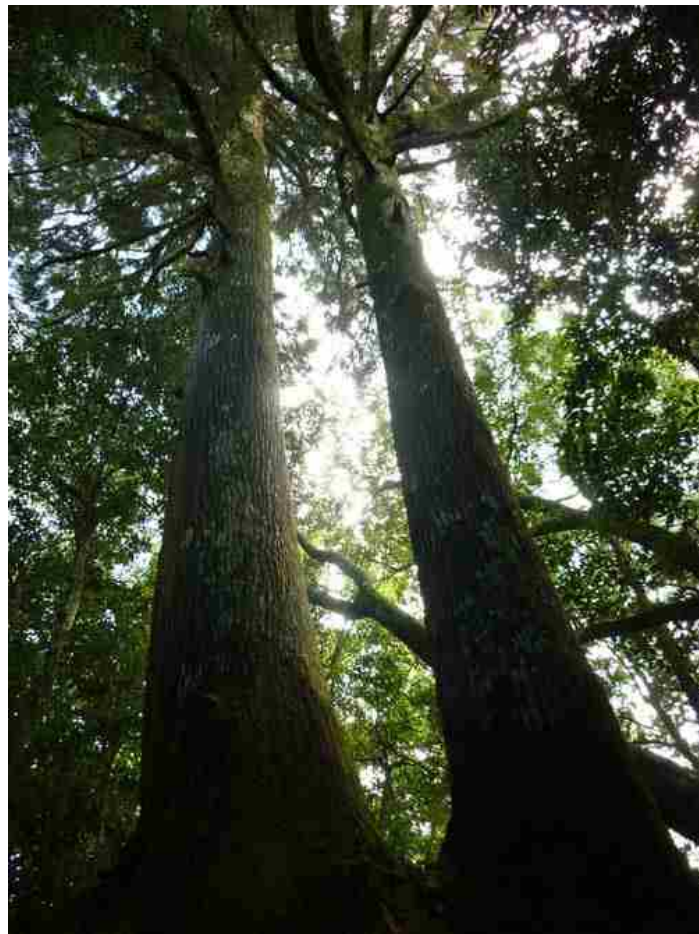


2010

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画

(綾の照葉樹林プロジェクト)

平成 22 年度事業報告書



綾の照葉樹林プロジェクト連携会議

九州森林管理局・宮崎県・綾町

(財) 日本自然保護協会・てるはの森の会

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）

平成 22 年度事業報告書目次

目次.....	1
短期行動計画.....	3

報告書（短期行動計画順に掲載）

1.照葉樹林文化推進事業（てるはの森の会）.....	5
2 プロジェクト事務局運営事業（てるはの森の会）.....	6
3 綾森林生態系保護地域保全管理計画の策定（九州森林管理局）.....	7
4.綾川上流緑の回廊モニタリング調査（九州森林管理局）.....	8
5.保護林モニタリング調査（九州森林管理局）.....	9
6.環境教育エリア内の施設整備（九州森林管理局）.....	10
7.保護林等の情報に関する HP の充実（九州森林管理局）.....	11
8.人工林から照葉樹林への復元事業（九州森林管理局）.....	12
9.人工林から照葉樹林への復元事業（宮崎県）.....	13
10.人工林から照葉樹林への復元事業（綾町）.....	14
11.持続的林業経営エリアにおける森林整備（九州森林管理局）.....	15
12.ボランティア作業の実施（九州森林管理局・てるはの森の会）.....	16
13.調査研究ワーキングの実施（日本自然保護協会）.....	17
14.人工林から照葉樹林へのより効果的な復元手法の検討（九州森林管理局）.....	18
15.照葉樹林復元の動態・種子供給源調査及びシカ被害調査（九州森林管理局）.....	19
16.綾の照葉樹林復元のための調査・事業取りまとめ等の実施（九州森林管理局）.....	20
17.県産材を利用した商品開発による照葉樹林の復元（てるはの森の会）.....	21
18.データベースサイトの構築と運用の開始（日本自然保護協会）.....	22
19.生涯学習講座（綾町）.....	23
20.照葉樹林環境教育講座（綾町）.....	24
21.県有林造成事業（宮崎県）.....	25
22.遊歩道整備ボランティア作業（てるはの森の会）.....	26
23.会員情報（てるはの森の会）.....	27
24.綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける市民参加による自然林の復元調査(日本自然保護協会).....	28
25.里山里海 SGA レポート(綾の過去50年の生態系サービスの变化とその要因)の出版(日本自然保護協会).....	29
26.ホームページ等の充実（九州森林管理局）.....	30
27.普及啓発事業（てるはの森の会）.....	31

28.照葉樹林文化シンポジウム運営補助（綾町）	32
29.第5回照葉樹林研究フォーラムの開催（てるはの森の会）	33
30.国際照葉樹林サミット（てるはの森の会）	34
31.事業説明会の開催（九州森林管理局）	35
32.環境学習事業（てるはの森の会）	36
33.森林セラピー基地整備事業（綾町）	37
34.地域づくりワーキングの設置及び運営（てるはの森の会）	38
35.照葉大吊橋ビジターセンター運営事業（てるはの森の会）	39
36.ふれあい調査の実施（古屋地区）（日本自然保護協会）	40

参考資料(新聞記事)

37.照葉樹林文化館 改装オープン	宮崎日日新聞 2010年4月4日	41
38.綾町山歩き HP 開設	宮日 2010年5月8日	41
39.国際照葉樹林サミット開催	宮日 2010年5月16日	42
40.国際照葉樹林サミット延期	宮日 2010年5月28日	43
41.綾てるは図書館の企画展	宮日 2010年6月20日	43
42.綾プロの紹介	宮日 2010年6月25日	44
43.本の紹介「照葉樹林って何だろう」	宮日 2010年6月29日	44
44.水源の森百選	宮日 2010年6月30日	45
45.綾の照葉大吊橋架け替え	宮日 2010年8月3日	46
46.ユネスコエコパーク申請へ	宮日 2010年8月10日	47
47.エコパーク目指す綾町 上	宮日 2010年8月23日	48
48.エコパーク目指す綾町 下	宮日 2009年8月24日	49
49.間伐材使い製品開発	宮日 2010年8月31日	50
50.スギ間伐材 木工製品に	朝日新聞 2010年10月16日	51
51.ラオス公務員 綾で研修	宮日 2010年3月8日	52
52.架け替え工事安全祈願	宮日 2010年10月19日	53
53.綾の照葉大吊橋 来月から閉鎖	宮日 2010年10月22日	53
54.ユネスコ関係者が綾視察	宮日 2010年10月28日	54
55.鈴木邦雄さんに聞く	宮日 2010年10月30日	55
56.MAB計画って何？	宮日 2010年11月1日	56
57.照葉樹林復元ボランティア募集	宮日 2010年11月13日	56
58.水源の森をすすめる市民の会 綾の森を散策	宮日 2010年11月16日	57
59.里山を子どもたちに	宮日 2010年11月22日	57
60.人と森の明日 国際森林年に	宮日 2011年1月5日	58
61.太陽電池生産で活性化	宮日 2011年1月8日	59
62.架け替え工事本格化	宮日 2011年1月14日	60
63.綾プロ事業説明会開催	宮日 2011年1月20日	61
64.綾プロ事業説明会開催	宮日 2011年1月23日	61
65.間伐材パネル商品化	宮日 2011年2月20日	62

(報告書の掲載方法) 1 事業を 1 頁にまとめ、短期行動計画の順に並べて掲載。表左側は、短期行動計画。記載者から右の項目は報告書記載担当者、事業名、事業の連携先、掲載頁となっている。

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画 (綾の照葉樹林プロジェクト)

短期行動計画 (20 年度～24 年度)

項目	項目	課題	行動計画	実施項目	主担当	記載者	報告書記載事業名	連携先	頁
1	協働の体制づくり	綾の照葉樹林プロジェクトの推進のための基盤整備	1 協定書を見直し第Ⅱ期行動計画を作成する	① 協定書を延長するとともに必要に応じて内容の見直しを検討	全				
			2 森林計画の策定し、照葉樹林の復元、地域づくりを推進する	② 本プロジェクトを規定する森林計画を策定	全				
			3 事務局体制を確立し、安定的な事務局業務の運営を行う	① 安定的な財政基盤を確立	全				
				② 2名以上の専任の雇用し、事務局業務運営を行う	全	T	照葉樹林文化推進事業	町	5
2	照葉樹林の保護	保護林の計画的・順応的保全管理を実施	1 保護林の保全管理計画を策定する	③ 事務局運営のための事務所の整備	全	T	プロジェクト事務局運営事業	全	6
				④ 綾森林生態系保護地域の保全管理計画策定	国・NJ	国	綾森林生態系保護地域保全管理計画の策定	NJ	7
				② てるは郷土の森の保全管理計画策定	国・町				
				③ 県植物群落参考林の保全管理計画策定	県				
				④ 綾川上流緑の回廊モニタリング調査	国	国	綾川上流緑の回廊モニタリング調査 保護林モニタリング調査		8 9
			2 保全管理計画に基づき適切な保全管理を行う	① 巡視体制の構築	全				
				② 管理施設(案内板・標識等)の整備	全	国	環境教育エリア内の施設整備		10
			3 広く保護林等に係る各種情報を発信する	① 保護林等情報に関する HP の充実	全	国	保護林等の情報に関する HP の充実		11
				② 各種パンフレットの作成	全				
				③ 市民に向けた講演会の実施	全				
3	照葉樹林の効果的・効率的な復元を推進	照葉樹林への効果的・効率的な復元を推進	1 復元手法を確立する	① 復元の基本方針(構想)を策定する	国・NJ				
				② 復元の復元手法の確立(復元手法マニュアルの作成)	国・NJ				
			2 復元手法に応じた施策を実施する	① 計画的な間伐の実施(国有林約500ha、県有林、町有林)	国・県・町	国	人工林から照葉樹林への復元事業		12
				② 持続的な林業経営を行うエリアにおける施策の実施	国	国	人工林から照葉樹林への復元事業		13
				③ 復元見本林の設置	国・NJ	町	人工林から照葉樹林への保護復元	NJ	14
			3 市民のプロジェクトへの参加を推進する	① 持続的な林業経営を行うエリアにおける森林整備	国	国	持続的な林業経営エリアにおける森林整備		15
				① 市民参加型の復元作業の実施	国・T	国	ボランティア作業の実施		16
4	照葉樹林の調査研究	照葉樹林を適切に復元するための調査研究を推進し、復元に反映	1 効果的・効率的な復元のための検討体制を構築する	① 調査研究ワーキンググループの設置、運営	国・NJ	NJ	調査研究ワーキングの実施	国	17
				② 基本方針に基づき調査・研究体制の整備	全	国	人工林から照葉樹林へのより効果的な復元手法の検討		18
				③ 他のワーキンググループ、調査研究機関との連携	全				
			2 調査・研究のための基本方針(構想)を策定し、計画的に調査を実施する	① 調査・研究の基本方針(構想)を策定	全				
				② 基本方針に基づき毎年度計画的な調査の実施	全	国	照葉樹林復元の動態・種子供給源調査及びシカ被害調査	NJ	19
				③ 復元に必要なデータの収集と解析	国・NJ	国	照葉樹林復元のための調査・事業取りまとめ等の実施		20
			3 復元効果を評価する調査研究を推進する	① 間伐後の復元状況を把握するモニタリングポイントの設置(国有林、県有林、町有林)	国・NJ				
				② データの収集、解析、復元方法へのフィードバック方法の確立	国・NJ				
			4 人工林等からの照葉樹林への復元手法等を検討する	① 人工林等からの照葉樹林への効果的・効率的な復元手法について検討	国・T・NJ				
				② 間伐木の処理方法等についての検討	国・T・NJ	T	県産材を利用した商品開発による照葉樹林の復元	町	21
			5 調査・研究成果の共有化及びデータベースを構築する	① 調査・研究成果の情報発信	全				
				② GISを活用した林小班ごとの復元に必要な情報の整備	国・NJ				
				③ 調査・研究成果の共有化・データベース化	国・NJ	NJ	データベースサイトの構築と運用の開始	国・T	22

綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画（綾の照葉樹林プロジェクト）

短期行動計画(20年度～24年度)

項目	項目	課題	行動計画	実施項目	主担当	記載者	報告書記載事業名	連携先	頁
5	照葉樹林を通しての環境教育	照葉樹林の重要性を学ぶ環境教育の実施	1 環境教育プログラムを策定、実践	① 環境教育を実施するための行動計画を策定	全				
				② 環境教育エリア内の必要な整備計画を策定	全				
				③ 環境教育プログラムを検討し、試行的に実施	国・町・T	町	生涯学習講座		23
				④ 環境教育エリア内の環境整備	国	町	照葉樹林環境教育講座	T	24
			2 大吊橋周辺の活用方法を検討、ト整備を行うとともに環境教育を実践する	① 大吊り橋周辺の環境教育に関する活用方法の検討	T				
				② 必要なルート整備を実施	県・町	県	県有林造成事業		25
				③ 崩壊した九州自然歩道について新たなルートを検討し、今後の活用方法について提案	県	T	遊歩道整備ボランティア作業	県	26
6	プロジェクトの情報発信	情報発信及び支援の輪の拡大活動	1 市民や民間企業参画のためのシステムやメニューづくりを行い、プロジェクトを推進する	① 綾プロの支援メニューづくり・企業の支援メニューづくりを検討し、実践	T				
				② サポーターの募集を行い、会員を増やす	全	T	会員情報		27
				③ 市民参加型の間伐事業を実施（国有林）	全				
				④ 市民参加型の林床調査を実施する（国有林、県有林、町有林）	全	NJ	綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける市民参加による自然林の復元調査（継続）	T	28
			2 広く一般にプロジェクトの内容を知ってもらい、会員の拡大を図る	① バンフレット、リーフレットの作成及び配布	全				
				② ニュースレター、報告書の作成及び配布	全	NJ	里山里海 SGA レポート(綾の過去50年の生態系サービスの変化とその要因)の出版	T	29
				③ HPの作成及び更新	全	国	ホームページ等の充実		30
				④ フェアラム・シンポジウムを実施	町・T	T	普及啓発事業	全	31
						町	照葉樹林文化シンポジウム運営補助		32
						T	第5回照葉樹林研究フォーラムの開催	全	33
				⑤ 講演会等の実施	全	国	国際照葉樹林サミット 2010	全	34
			3 ガイドボランティアを養成し、市民の理解を深め、てるはの森の会の会員増加を図る	① ガイドボランティア事業の実施・養成	T	T	事業説明会の開催	全	35
				② ガイドボランティアがガイドを通して市民に綾プロを理解してもらうためのプログラム作り	T		環境学習事業	町	36
			4 森林セラピー基地としての綾町の取り組みを通して、会員増加を図る	① 森の案内人を通した照葉樹林の新たな活用方法を検討し、プロジェクトへの理解を深めるための森林セラピープログラムを作成	町	町			37
				② ガイドボランティアとの連携体制についての検討	町・T				
7	照葉樹林と共生した地域づくり	自然と共生した地域づくり	1 市民との協働で実施する運営体制を構築し、市民が積極的に綾プロに参画できるようにする	① 地域づくりワーキングの設置及び運営	町・T	T	地域づくりワーキングの設置及び運営	町	38
				② てるはの森の驛の活用方法を検討し、それに応じて必要な整備	町・T	T	照葉大吊橋ビジターセンター運営事業	町	39
				③ ふれあい調査の実施	NJ・町・T	NJ	ふれあい調査の実施（古屋地区）	町・T	40
			2 照葉樹林文化館の活用方法を検討し、より広く活用されるようにする	① 活用方法を検討する市民協議会の設置	町・T				
				② 照葉樹林文化館の活用計画を策定	町・T				
			3 綾町の他の事業との連携のあり方を検討し、実行計画を策定する	① 活用方法を検討する市民協議会の設置	町・T				

※ 国は九州森林管理局、県は宮崎県、町は綾町、NJは日本自然保護協会、Tはてるはの森の会の略

1-3-②

事業名	照葉樹林文化推進事業(継続)	実施主体	綾町
		連携先	てるはの森の会 (宮崎文化本舗)
事業概要 (目的)	ふるさと雇用再生特別交付金事業を活用し、照葉樹林文化推進のため1名を雇用する。		

照葉樹林文化推進事業の委託を受けた宮崎文化本舗は1名を雇用し、てるはの森の会の職員として派遣した。てるはの森の会の事務補助として、綾プロジェクトに関わった。

委託事業費を活用した成果物の1つが「てるはの森の会」のパンフレットだ。当会の活動紹介、綾の照葉樹林プロジェクトの活動紹介、綾の照葉樹林の紹介を掲載している。パンフレットを長く所有して欲しい、持ち歩いて欲しいという思いから、裏面に簡略的な散策地図を掲載した。サイズはA3の両面印刷になっている。

国際照葉樹林サミットで配布することができた。



てるはの森の会パンフレット

今年度から、綾町の生涯学習講座にも参加している。開講前に河野耕三氏の下見に同行し、植物リストを作成。食・薬効・毒や工芸などの利用方法、分布状況などを一覧にまとめ、講座ごとに資料として配布した。1年間で約800種類のリストができた。

次年度も継続して生涯学習講座に参加し、精査しながら綾の植物リストを作成する予定だ。



植物リストを手に、生涯学習講座を受ける様子



植物の特徴などを確かめながら、名前を覚えて確認する場面

1-3-③

事業名	プロジェクト事務局運営事業(継続)	実施主体	てるはの森の会																																	
		連携先	連携会議																																	
事業概要 (目的)	プロジェクト関係機関との調整、問合せ対応、事業の企画運営などを行なう。 年 2 回開催の連携会議、月 1 回開催の連絡調整会議の連絡調整、資料作成等の準備を行う。																																			
○連携会議	<table><tr><th>回数</th><th>日時</th><th>主な議題</th></tr><tr><td rowspan="2">12</td><td rowspan="2">8 月 9 日</td><td>平成 21 年度事業報告・平成 22 年度事業計画案</td></tr><tr><td>地域づくりWGからの提言・「国際照葉樹林サミット」</td></tr><tr><td rowspan="2">13</td><td rowspan="2">1 月 21 日</td><td>平成 22 年度事業計画進捗状況について</td></tr><tr><td>「国際照葉樹林サミット 2011」 ユネスコ「人間と生物圏(MAB)」計画について</td></tr></table>			回数	日時	主な議題	12	8 月 9 日	平成 21 年度事業報告・平成 22 年度事業計画案	地域づくりWGからの提言・「国際照葉樹林サミット」	13	1 月 21 日	平成 22 年度事業計画進捗状況について	「国際照葉樹林サミット 2011」 ユネスコ「人間と生物圏(MAB)」計画について																						
回数	日時	主な議題																																		
12	8 月 9 日	平成 21 年度事業報告・平成 22 年度事業計画案																																		
		地域づくりWGからの提言・「国際照葉樹林サミット」																																		
13	1 月 21 日	平成 22 年度事業計画進捗状況について																																		
		「国際照葉樹林サミット 2011」 ユネスコ「人間と生物圏(MAB)」計画について																																		
○連絡調整会議	<table><tr><th>回数</th><th>日時</th><th>主な議題</th></tr><tr><td>1</td><td>4 月 15 日</td><td>平成 21 年度報告書・連携会議について 「国際照葉樹林サミット」について</td></tr><tr><td>2</td><td>5 月 10 日</td><td>「国際照葉樹林サミット」・MAB 計画について 第 12 回連携会議について</td></tr><tr><td>3</td><td>8 月 9 日</td><td>養蜂場の計画について</td></tr><tr><td>4</td><td>9 月 13 日</td><td>次回間伐作業（11 月 28 日）について 今後のスケジュールについて MAB 計画について</td></tr><tr><td>5</td><td>10 月 12 日</td><td>次回間伐作業（11 月 28 日）について 今後のスケジュールについて MAB 計画について</td></tr><tr><td>6</td><td>11 月 16 日</td><td>次回間伐作業（11 月 28 日）について 今後のスケジュールについて MAB 計画について</td></tr><tr><td>7</td><td>12 月 20 日</td><td>綾プロ事業報告会・連携会議の開催について 今後のスケジュールについて 綾町広報誌について</td></tr><tr><td>8</td><td>1 月 20 日</td><td>綾の照葉樹林プロジェクト事業説明会開催について 第 13 回連携会議について 今後のスケジュールについて</td></tr><tr><td>9</td><td>2 月 18 日</td><td>BR 申請について 報告：シカ問題、県有林遊歩道看板設置について</td></tr><tr><td>10</td><td>3 月 17 日</td><td>BR 申請について</td></tr></table>			回数	日時	主な議題	1	4 月 15 日	平成 21 年度報告書・連携会議について 「国際照葉樹林サミット」について	2	5 月 10 日	「国際照葉樹林サミット」・MAB 計画について 第 12 回連携会議について	3	8 月 9 日	養蜂場の計画について	4	9 月 13 日	次回間伐作業（11 月 28 日）について 今後のスケジュールについて MAB 計画について	5	10 月 12 日	次回間伐作業（11 月 28 日）について 今後のスケジュールについて MAB 計画について	6	11 月 16 日	次回間伐作業（11 月 28 日）について 今後のスケジュールについて MAB 計画について	7	12 月 20 日	綾プロ事業報告会・連携会議の開催について 今後のスケジュールについて 綾町広報誌について	8	1 月 20 日	綾の照葉樹林プロジェクト事業説明会開催について 第 13 回連携会議について 今後のスケジュールについて	9	2 月 18 日	BR 申請について 報告：シカ問題、県有林遊歩道看板設置について	10	3 月 17 日	BR 申請について
回数	日時	主な議題																																		
1	4 月 15 日	平成 21 年度報告書・連携会議について 「国際照葉樹林サミット」について																																		
2	5 月 10 日	「国際照葉樹林サミット」・MAB 計画について 第 12 回連携会議について																																		
3	8 月 9 日	養蜂場の計画について																																		
4	9 月 13 日	次回間伐作業（11 月 28 日）について 今後のスケジュールについて MAB 計画について																																		
5	10 月 12 日	次回間伐作業（11 月 28 日）について 今後のスケジュールについて MAB 計画について																																		
6	11 月 16 日	次回間伐作業（11 月 28 日）について 今後のスケジュールについて MAB 計画について																																		
7	12 月 20 日	綾プロ事業報告会・連携会議の開催について 今後のスケジュールについて 綾町広報誌について																																		
8	1 月 20 日	綾の照葉樹林プロジェクト事業説明会開催について 第 13 回連携会議について 今後のスケジュールについて																																		
9	2 月 18 日	BR 申請について 報告：シカ問題、県有林遊歩道看板設置について																																		
10	3 月 17 日	BR 申請について																																		

2-1-①

事業名	綾森林生態系保護地域保全管理計画の策定	実施主体	九州森林管理局
		連携先	NACS-J
事業概要 (目的)	綾森林生態系保護地域における保全管理について検討を行った。		

綾森林生態系保護地域の保全管理にあたって必要な以下の調査を実施し、第2回、第3回の検討委員会を開催した。

調査内容

綾森林生態系保護地域における動植物相を概略把握するための調査

植物相調査（調査ルート沿いに出現する植物相の確認）

動物相調査（フィールドサイン調査、任意観察調査、自動撮影調査）

希少猛禽類調査（クマタカをはじめとする希少猛禽類の生息調査）

検討委員会の概要

第2回の検討委員会は平成22年9月29日に宮崎市内で開催し、主として対象地域の特徴と現状の確認、対象地域の保全管理と利用に関する事項について議論を行った。

第3回の検討委員会は平成23年2月7日に宮崎市内で開催し、対象地域の保全管理、利用に関する事項の確認と保全管理の推進体制に関する議論等を行った。



動物相調査で確認されたニホン
カモシカ(自動撮影調査)



綾森林生態系保護地域
保全管理計画検討委員会の様子

2-1-④

事業名	綾川上流緑の回廊モニタリング調査	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	「綾川上流緑の回廊（エリア3・5）」において森林の状態とそこに生息・生育する野生動植物の実態を把握するため、以下のモニタリング調査を行った。 1 森林植生調査（4箇所、エリア5） 2 哺乳類・鳥類生息調査（4箇所、エリア5）		
平成18年度に設置した4箇所の調査プロットにおいて、森林植生調査並びに哺乳類及び鳥類の生息調査を行った。哺乳類は自動撮影調査及びフィールドサイン調査を、鳥類はプロットセンサス調査などを行った。その結果、ホンドテン、ムササビなど11種の哺乳類とコシジロヤマドリなど30種の鳥類を確認した。 綾川上流緑の回廊モニタリング調査は平成18年度より4年を1サイクルとして行ってきたところであり、今回の調査箇所は平成18年度に実施した箇所のモニタリングに位置づけられる。 調査の結果、平成18年と比較してシカ食害等の要因によると考えられる出現植物の変化が見られたプロットがあったものの、動物相については大きな変化は見られなかった。			
 調査風景(自動撮影装置の設置)  ムササビ（自動撮影調査）			
 ホンドイタチ（自動撮影調査）  イタチ類の糞 (フィールドサイン調査)			

※ フィールドサイン調査：個体の直接観察や痕跡観察により、生息状況を把握する調査

※ プロットセンサス調査：調査区域内にランダムに観察区画を設定し、一定時間内に観察された種類を記録する調査

2-1-④

事業名	保護林モニタリング調査	実施主体	九州森林管理局
事業概要 （目的）	掃部岳植物群落保護林における保護林モニタリング調査、並びに綾森林生態系保護地域、大森岳植物群落保護林、てるは郷土の森における保護林モニタリング基礎調査を行った。		
綾の照葉樹林プロジェクトエリア内の掃部岳植物群落保護林において保護林モニタリング調査を実施したほか、綾森林生態系保護地域、大森岳植物群落保護林、てるは郷土の森について資料調査、現地概況調査等による保護林モニタリング基礎調査を行った。 掃部岳植物群落保護林で行った保護林モニタリング調査では 8 箇所の調査プロットにおいて毎木調査、植生調査等を行ったほか、登山道沿いのルートでシカ被害状況調査を行った。 調査プロットで確認された植物はブナやアカガシ等、当保護林を代表する樹種その他、シカの忌避植物であるシキミ、アセビ等も多く確認された。 またシカ被害調査ではリョウブ、エゴノキ等の樹皮への食害等が広い範囲で確認されたほか、マツカゼソウやイワヒメワラビなどシカの忌避植物が優占する箇所が見られるなど、シカによる森林生態系への影響が課題としてあげられた。			
 調査プロット設置箇所周辺の林況 （掃部岳植物群落保護林）  シカによる樹皮剥皮害の状況 （掃部岳植物群落保護林）			

2-2-②

事業名	環境教育エリア内の施設整備	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾森林生態系保護地域の保全利用地区（バッファゾーン）において、森林環境教育的な利用を推進するための説明板及び樹名板を製作した。		

綾森林生態系保護地域の保全利用地区において森林環境教育的な利用を推進するための木製説明板及び樹名板を製作した。

説明板は木製の支柱及び枠を使用したもので、「森林軌道と製材所跡について」、「イチイガシの森の生態系について」、「森林からの木材の運搬と修羅出し跡について」説明したものをそれぞれ製作した。

また樹名板は杭またはスプリング等により設置できるもので、科名及び樹種名を記入したものを 50 枚、無記入のものを 100 枚製作した。

今後はこれらを活用した森林環境教育等の実施により綾森林生態系保護地域をはじめとする綾の照葉樹林の生態系や生物多様性やそれらを保管理していくことの重要性等について普及啓発を行っていくこととしている。



説明板
(森林軌道と製材所跡)



樹名板

2-3-①

事業名	保護林等の情報に関する HP の充実	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトに関係する各保護林についての情報発信のため、概況等を紹介するページを新規に作成した。		

綾の照葉樹林プロジェクト内に位置する掃部岳植物群落保護林、大森岳植物群落保護林、綾森林生態系保護地域、てるは郷土の森について概況等を紹介するホームページの作成を行った。

掃部岳植物群落保護林
<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/sidou/hogorin/kamondake.html>

大森岳植物群落保護林
<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/sidou/hogorin/oomoridake.html>

綾森林生態系保護地域
<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/sidou/hogorin/aya.html>

てるは郷土の森
<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/sidou/hogorin/teruhakyoudo.html>





綾森林生態系保護地域 HP

てるは郷土の森 HP

3-2-①

事業名	人工林から照葉樹林への復元事業	実施主体	九州森林管理局								
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクト復元エリアの人工林を照葉樹林に復元するための間伐作業等を実施した。 <table><tr><td>作業の内容</td><td>実 行 面 積</td></tr><tr><td>除 伐</td><td>1 2 . 2 5 ha</td></tr><tr><td>間 伐</td><td>4 6 . 8 1 ha</td></tr><tr><td>計</td><td>5 9 . 0 6 ha</td></tr></table>			作業の内容	実 行 面 積	除 伐	1 2 . 2 5 ha	間 伐	4 6 . 8 1 ha	計	5 9 . 0 6 ha
作業の内容	実 行 面 積										
除 伐	1 2 . 2 5 ha										
間 伐	4 6 . 8 1 ha										
計	5 9 . 0 6 ha										
綾の照葉樹林プロジェクト小エリア毎の復元作業内容 1. エリア 5 (保護林と保護林との間にある復元エリアの人工林を抜き伐りし、かつての照葉林へ復元する作業を実施) ・ 間 伐 4 4 . 6 6 ha (2135号外10) 2. エリア 9 (アクセスが良く、環境教育、セラピー的利用を目指すエリアの人工林の抜き伐り作業を実施) ・ 除 伐 1 2 . 2 5 ha (2049号外3外4) ・ 間 伐 2 . 1 5 ha (2047号外1)  間伐作業状況 (柚園国有林2135た林小班)  間伐完了状況 (柚園国有林2135た林小班)											

3-2-①

事業名	人工林から照葉樹林への復元事業(継続)	実施主体	宮崎県
		連携先	
事業概要 (目的)	スギ人工林の混交林化への誘導技術に関する研究を継続実施 (試験期間：平成19年度～平成23年度・5ヶ年間)		

スギ人工林の混交林への誘導技術に関する研究概要

宮崎県林業技術センター

○これまでの経緯

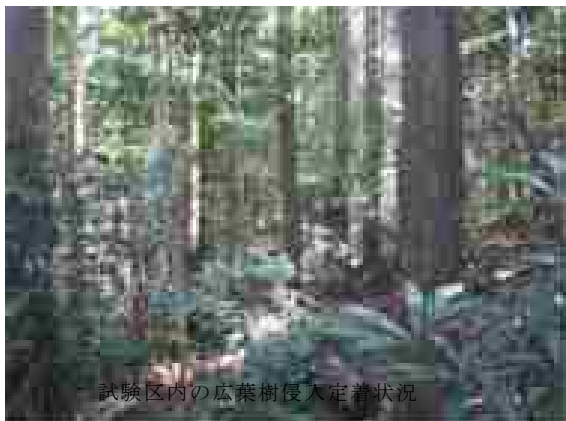
綾町諸県県有林24林班内の51年生スギ林内に本数率で0、30、50%の間伐試験区を設け調査を行った。林分の概況については、平均樹高17.3～18.4mと上長成長は劣り、地位はⅢ（平成19年度スギ林分収穫予想表）であった。形状比は82～88と高く、樹冠長比は32.6～34.7と中庸で、極端な樹冠の枯上がりはみられなかった。広葉樹の侵入の程度は比較的多く、試験地に隣接する場所に広葉樹が見られた。

○調査の内容

林内の植生について継続調査を行った結果、木本植物はどの試験区においても種数・本数とも同様の傾向を示し100m²当たり23～24種、136～138本であった。種数の半数がタブノキ、バリバリノキ、アラカシ等の照葉樹林型の高木性樹種であった。照葉樹林型の高木性樹種については、樹高100cm未満のものが本数で約半数を占めた一方、間伐以前から存在したと思われる500cm以上のものが約1割を占めた。当試験地は広葉樹林に隣接し、当初から広葉樹が多く侵入していたため、高木性樹種の侵入・定着が促進されたと考えられる。光環境の指標である開空度は7.5～8.0%となり間伐後3年が経過し間伐率の異なる試験区間で違いは見られなかった。

○今後の調査予定

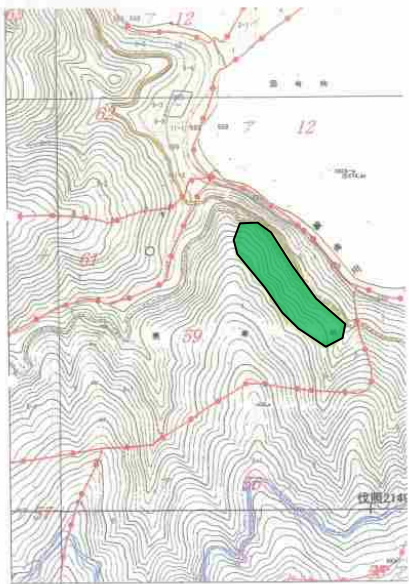
①広葉樹調査、②光環境調査、③埋土種子発芽試験、④既存広葉樹調査を行う。また、美郷町西郷区と椎葉村に同様に設置した試験区との比較を行う。



試験区内の広葉樹侵入定着状況



3-2-①

事業名	人工林から照葉樹林への保護復元	実施主体	綾町
		連携先	日本自然保護協会
事業概要 (目的)	綾プロジェクトエリア内の町有林の復元間伐を実施した。 実施期間 3月2日～3月25日 大口町有林 2.00 ha 30% スギ 切り捨て間伐		
 大口町有林位置図  実施状況  実施状況			

3-2-②

事業名	持続的林業経営エリアにおける森林整備	実施主体	九州森林管理局						
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトの持続的林業経営エリアにおいて、水土保持機能を高めるため保育間伐を実施した。 <table><tr><td>作業の内容</td><td>実 行 面 積</td></tr><tr><td>間 伐</td><td>14.71ha</td></tr><tr><td>作業道作設</td><td>1,000m</td></tr></table>			作業の内容	実 行 面 積	間 伐	14.71ha	作業道作設	1,000m
作業の内容	実 行 面 積								
間 伐	14.71ha								
作業道作設	1,000m								

綾の照葉樹林プロジェクト持続的林業経営エリアの作業内容

○ エリア11（持続的林業経営エリアにおいて、水土保持機能を高めるための保育間伐作業を実施）

- ・間伐 14.71ha(2123ぬ外2)
- ・作業道作設 1,000m(2107林班)

間伐作業状況
(柚園国有林2123る林小班)



間伐作業完了状況
(柚園国有林2123る林小班)



作業道完成状況
(柚園国有林2107林班)



3-3-①

事業名	照葉樹林復元ボランティア作業の実施	実施主体	九州森林管理局 てるはの森の会
事業概要 (目的)	ボランティア用見本林(2045い1外)において復元作業を実施。		

平成22年11月28日、今回8回目となるボランティアによる照葉樹林復元作業を行った。

当日は、地元からの応募者と関西からのピザハット体験ツアーの親子、合わせて31名が参加した。

作業は、傾斜が緩やかな箇所と傾斜がきつい箇所の2箇所に分かれて行った。

傾斜が緩やかな箇所では、親子グループが2班に分かれて交代で作業を行い、子供たちには作業を行わない時間を利用して木の枝を利用した「モックン」や名札づくりを行った。

作業後には、2年前に復元作業を行った箇所で、照葉樹が芽を出している状況などを説明、子供達は熱心に聞き入っていた。



親子で協力しての作業



照葉樹の稚樹に水をかける子供

<復元作業>

日光が地面に良く届くよう人工林のスギやヒノキを抜き伐りするもので、日光が林内に届くことで、すでに生育している照葉樹を大きくしたり、照葉樹の種が芽を出しやすくするために行う作業。

平成23年2月に予定されていた今年度2回目の復元作業は新燃岳の降灰により中止となった。

4-1-①

事業名	調査研究ワーキングの実施(継続)	実施主体	NACS-J
		連携先	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける照葉樹林の復元方法を科学的に検討し、適切な復元が実施されるように提言を行う。復元に必要な調査やデータの解析を行い、その結果を復元に反映させる。特に復元方法、適地選定、評価方法についてまとめた綾プロの復元マスタープランの作成を行う。		

4月27日に調査研究ワーキングの委員である岩本俊孝教授（宮崎大）、西脇亜也教授（宮崎大）、高木正博准教授（宮崎大）、河野耕三氏（綾町）が参加して綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける今年度の復元間伐を実施するエリアの視察を行った。また、九州森林管理局で策定した「綾の照葉樹林プロジェクト（綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画）における照葉樹林復元事業の実施方針について検討を行った。委員からは不安定な場所では保護樹帯から近く種子供給が期待できても地滑りや土壌侵食等によりあまり回復してこない、またそのような場所でシカによる食害の影響が懸念されるといった意見が出された。シカに対しては糞粒法による個体群密度の推定を行いどここのどの程度生息しているのかを把握する必要性やシカ柵設置による防除による対策についても意見が出た。また、照葉樹林復元事業の実施方針については前回の調査研究ワーキングでの意見に加えて広葉樹の発生が多い場合にはじんツルなどは伐採するとなっていたが残すようにすることなどいくつかの修正をしたこと、間伐施業した場所については施業の考え方にしたがって整理をして提示してほしいなどの意見があった。





写真1 現地見学のようす

写真2 綾町役場での検討のようす

4-1-①

事業名	人工林から照葉樹林へのより効果的な復元手法の検討	実施主体	九州森林管理局
		連携先	N A C S - J
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトの復元エリアを対象として、人工林を照葉樹の天然林に復元するためのより効果的な施業方法について検討した。		
人工林を照葉樹の天然林に復元するための効果的な施業方法（施業ガイドライン）について、調査研究WGの委員による検討会を行った。 検討会では、効果的に復元するための作業種、復元箇所に適した作業の選定基準などについて討議した結果、作業種選定については、林道から林分までの距離により、広葉樹の発生・生育状況、林齢及び造林木の状況から8つに区分し作業種を選択する表を作成した。 施業ガイドラインの検討 日 時 平成22年4月27日（火） 8:30～14:00 場 所 綾の照葉樹林プロジェクトの復元エリア及び綾町役場 WG委員 （敬称略、五十音順） 河野 耕三 （綾町 照葉樹林文化推進専門監） 高木 正博 （宮崎大学農学部准教授） 西脇 亜弥 （宮崎大学農学部教授）			
			
現地での復元状況確認		施業方法等の検討	

4-2-②

事業名	照葉樹林復元の動態・種子供給源及びシカ被害調査	実施主体	九州森林管理局
		連携先	N A C S - J
事業概要 (目的)	復元エリアにおいて、既設プロットの動態調査及びシカ食害調査を行うとともに、新たに落葉広葉樹林帯である標高約800m以上にプロットを設置し調査を実施		

綾の照葉樹林プロジェクトの復元エリアにおいて、効率的、効果的な照葉樹林への復元に資するため、既設プロットの動態調査に加え、落葉広葉樹が生育する人工林内に新たな調査プロットを設置し、種子供給源、実生発生、林内動態について調査した。

また、近年、シカによる稚幼樹への採食圧が散見されており、復元への阻害要因となる懸念があることから、既存の照葉樹林の調査プロットでシカ防護柵を設置し、シカによる被害調査を実施した。

〈主な調査結果〉

(1) 既設プロットの調査

平成 19、20 年度に調査した 6 調査プロットを対象として動態調査を実施した。いずれの調査プロットにおいても、下層植生の中に高木性樹種の存在が確認されており、また、一部調査プロットでは間伐の実施後実生が増加し間伐の効果が見られた。

(2) 落葉広葉樹林等を種子供給源とする新設プロットの動態調査

落葉広葉樹林等を種子供給源とする林分に 5 調査プロットを設置し、立木調査等を実施した。間伐を実施した一部調査プロットでは、実生の発生が確認された。

(3) シカ被害調査（シカ防護柵設置）

シカ防護柵を設置してシカの採食圧を排除した場合の潜在的な復元力を把握するため、防護柵を設置した調査区と設置しない対象区でそれぞれ動態調査を実施した。



落葉樹林の種子供給源の林況



シカ防護柵を設置した調査プロット

4-2-③

事業名	照葉樹林復元のための調査・事業とりまとめ等の実施	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾プロに関してこれまでに行われた各種調査事業の成果のとりまとめ等を実施		

1 対象区域

綾の照葉樹林プロジェクトエリア内（国有林野内）

2 内容

綾の照葉樹林プロジェクトエリア内において、九州森林管理局がこれまでに実施した各種調査について、照葉樹林の復元、緑の回廊モニタリング調査等に区分し、それぞれの概要と成果について取りまとめるとともに、G I Sを用いて調査プロットの位置図を作成した。

- ・照葉樹林の復元に関連する調査 調査年度毎にG I Sを活用しつつ、調査プロットの位置、毎木調査、稚樹調査等の調査内容、成果等を整理
- ・緑の回廊に関連する調査 調査年度毎にG I Sを活用しつつ、調査プロットの位置、森林調査、自動撮影調査等の調査内容、成果等を整理等

また、市民団体が行った水生昆虫に関する調査（綾の森の沢調査）の実施概況、森林総合研究所によるリサーチサイトの調査概況を併せてとりまとめた。

その他、九州森林管理局が取り組んでいる調査・研究、保護・復元事業等について市民の方々に紹介する冊子を作成した。





G I Sを活用した照葉樹林の復元に関連する調査プロットの位置図

綾の照葉樹林について取りまとめた冊子

4-4-②

事業名	県産材を利用した商品開発による照葉樹林の復元	実施主体	てるはの森の会
		連携先	綾町・環境省
事業概要 (目的)	県産材を利用した商品やサービスを開発・販売し、自主財源を確保する計画作りを行う。 「平成 22 年度持続可能な社会づくりを担う事業型環境 NPO・社会的企業中間支援スキーム事業のモデル実証事業」(環境省九州地方環境事務所)		

○業務の概要

宮崎県下での間伐材を利用した木工品の開発・試作品の製作及び森を利用したサービスの開発・施行を行い、新たなビジネスモデルとしての可能性を検討するため、事業を行う。

○商品の開発

木製パネル・展示スタンド等の商品開発

○今後の課題

● 目標額を売するための仕組みづくり。

● 具体的に、どれくらい製品を作るとどれくらい森の活動に還元できるのかを明示する工夫。

● 製品自体回転させるものではない点をどう克服するのか。

● 販売を通した活動のメッセージを浸透させる。

● 焼印をつくってはどうか。

● てるはの森の会がなぜその製品をつくっているのか、購入者がわかるようにする。

○今後の行動計画

● 間伐地の材利用のやり方。
(何ヘクタール、搬出は誰がするか、そのコストは… 等)

● 焼印の開発 (てるはの森の会 ロゴマーク作成)

● てるはの森の会がなぜその製品をつくっているのか購入者がわかるようなものを作成し、製品に添付する。

○まとめ

試作品を検討する中で、木製パネルの需要があることが実感できた。今後はいかに持続的に販売数や生産数を維持していくか、検討する必要がある。
てるはの森の会の経営的自立に向けて、パネル販売事業を今後どのように運営・展開していくのか、具体的に検証することができた。木製パネルだけでなく、スタンドを開発できたことが本事業の成功につながると思う。



木製パネル



パネルスタンド



木製パネル



パネルスタンド

4-5-③

事業名	データベースサイトの構築と運用の開始	実施主体	NACS-J
		連携先	九州森林管理局、 てるはの森の会
事業概要 (目的)	SISPA(戦略的保全地域情報システム)のデータベースのグループ化機能を使って綾プロで作成された各種情報を登録し、関係者間で共有できるようにする。特に市民参加調査で得られた情報を登録し、参加者や関係者が閲覧できるようにする。		

これまでプロジェクト内外で実施されてきた綾の照葉樹林に関する調査研究は、照葉樹林の保護・復元に非常に重要な基礎資料となる。またMABへの指定に向けて、指定後の継続的な調査にも重要なものとなってくる。そこで、これまでの調査、研究の成果をデータベース化し、地図上にまとめ、関係者間で共有できる仕組みを作る。

2010年9月までにSISPAウェブサイト内に綾プロジェクトのグループを作成し、下記のものデータをデータベースに登録した。

- ・NACS-J実施の町有林復元のための基礎調査報告書
- ・九州の照葉樹林の潜在メッシュ
- ・大森岳・式部岳に設置した気象観測ロガーのデータ
- ・MABに指定されるエリア図(予定地)
- ・NACS-Jが行っている調査の位置情報
- ・ボランティア活動植生調査の組成表

これらはユーザーIDおよびパスワードが分かるメンバーのみ閲覧可能になっている。またこれらのデータをもとに解析を行った結果を広く公開するためウェブサイト上に「日本に残る、僅かな照葉樹林」、「大森岳調査の結果」などの解析事例を掲載した。



図1 データベースに登録されたデータ



図2 綾プロデータの一部を重ねあわせた様子

5-1-③

事業名	生涯学習講座	実施主体	綾町
		連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	「自然と調和した豊かで活力に充ちた教育文化都市綾町」創出のため、綾の照葉樹林を中心とした自然について専門家の講義を聴き、町民の保護運動参加への一助とする生涯学習を開設した。		
講座実施状況			
6月から実施 延べ 204 名参加			
		() 講師	
第 1 回	6 月 8 日 (火) 屋外	食用可・不可の植物	竹野 (河野 耕三)
第 2 回	7 月 13 日 (火) 屋外	食べられる野草、毒を持つ野草	錦原付近 (河野 耕三)
第 3 回	7 月 13 日 (火) 屋内	綾町の文化財色々	町公民館 (井上 隆広)
第 4 回	8 月 9 日 (月) 屋外	水田の草、河辺の草	トレイルセンター付近 (河野 耕三)
第 5 回	8 月 10 日 (火) 屋内	地下式横穴墓の説明	町公民館 (井上 隆広)
第 6 回	9 月 21 日 (火) 屋外	ツル性植物、沢を好む植物	千尋の滝他 (河野 耕三)
第 7 回	10 月 12 日 (火) 屋外	秋の木の実を含む山菜、薬草	照葉吊橋付近 (河野 耕三)
第 8 回	10 月 12 日 (火) 屋内	尾立縄文遺跡、小平谷遺跡	町公民館 (井上 隆広)
第 9 回	11 月 16 日 (火) 屋外	ドンガラになる木色々	諸県県有林 (河野 耕三)
第 10 回	11 月 16 日 (火) 屋外	文化財、史跡を廻る	町内 (井上 隆広)
第 11 回	12 月 21 日 (火) 屋外	川中神社付近の植物	川中神社付近 (河野 耕三)
第 12 回	1 月 18 日 (火) 屋外	自然生態系保全林の植物	川中キャンプ 場 (河野 耕三)
第 13 回	2 月 22 日 (火) 屋外	里・湿地・水辺の植物	錦原公園付近 (河野 耕三)
第 14 回	3 月 15 日 (火) 屋外	里にある食べられる野草を探す	古屋 (河野 耕三)
			
食べられる野草を探す			

5-1-③

事業名	照葉樹林環境教育講座	実施主体	綾町
		連携先	てるはの森の会
事業概要 (目的)	子ども達が貴重な財産である照葉樹林について理解を深め、同時に自然意識の高揚を図る。綾小、中学校で実施した。		

※ 綾小学校 4年生 64名 担任 3名 計67名
講師 フェニックス宮崎ネイチャーゲームの会
平成22年11月29日(月) 会場 綾神社と周辺公園遊歩道
内容
ネイチャーゲーム
①ジャンケン落ち葉集め ②音いくつ ③ディスカバーウォーク ④ サイレントウォーク
⑤ドングリ拾い ⑥森と水の話 :まとめ

※ 綾中学校 1年生 73名
平成23年1月27日(木) 会場 綾中体育館
内容
「国有林の仕事と綾の森」 講師 宮崎森林管理署、綾森林事務所
法ヶ岳森林事務所、竹野森林事務所



綾小学校 (綾神社)



綾中学校(綾中体育館)

事業名	県有林造成事業（継続）	実施主体	宮崎県
事業概要 （目的）	針・広混交林化を進めるエリアにおいて、森林環境教育や保健休養的利用を促進するため、修景整備（歩道整備）、獣害防除、間伐事業を実施した。		
1 間伐事業 1) 実施面積 5. 29 h a 2) 事業実施期間 1 1 月～3 月			
2 獣害防除事業【25世紀の森（カヤとスギの複層林）の維持管理】 1) 実施面積 3. 23 h a 2) 事業実施期間 1 0 月～3 月 シカ害対策地 全景 カヤ植生状況			
1 管理道維持管理 1) 路線名 作業道広沢線他 L=17,500m 2) 事業実施期間 7 月～1 0 月 作業前（草刈） 完 成			

5-2-②

事業名	遊歩道整備ボランティア作業	実施主体	てるはの森の会
		連携先	宮崎県・綾町
事業概要 (目的)	大吊り橋上の遊歩道(諸県県有林・綾町有林)を整備し、新たな散策ルートとして活用する。		



作業の様子



大森岳を望む展望スポット

○遊歩道整備作業（5月8日）

昨年から取り組んでいる諸県県有林・綾町有林の遊歩道整備事業。

今年度はスギを伐り、大森岳の見える展望スポットを整備した。チェーンソーと草刈り鎌で整備すること3時間。14名の参加者の頑張りにより、展望スポットが出来た。



コナラ

○遊歩道調査（12月6日）

県有林遊歩道に案内板を設置するための遊歩道の調査。

尾根沿いに照葉樹林が残り、コナラ林を見つけた。GPSを使い、遊歩道のわき道を地図上に落とし込み、看板案を作製した。

○看板設置

県有林遊歩道に案内板を設置。

懸案の照葉樹林文化館の上の崖もロープが張られ、安全に通行可能となった。



設置した看板

6-1-②

事業名	会員情報	実施主体	てるはの森の会										
		連携先	全										
事業概要 (目的)	サポーターの募集を行い、会員を増やす。												
○会員数：H23.3.31現在 個人会員127件(-3) 前年比 家族会員27件(-1) 法人会員25件(+0) 団体会員14件(+0) ○会費収入515,500円 ○寄付金収入444,430円 <table><tr><td>吊り橋募金</td><td>18,467</td></tr><tr><td>企業寄付</td><td>400,000</td></tr><tr><td>個人寄付</td><td>17,463</td></tr><tr><td>写真集寄付</td><td>8,500</td></tr><tr><td>計</td><td>444,430</td></tr></table>				吊り橋募金	18,467	企業寄付	400,000	個人寄付	17,463	写真集寄付	8,500	計	444,430
吊り橋募金	18,467												
企業寄付	400,000												
個人寄付	17,463												
写真集寄付	8,500												
計	444,430												

6-1-④

事業名	綾の照葉樹林プロジェクトエリアにおける 市民参加による自然林の復元調査（継続）	実施主体	NACS-J
		連携先	てるはの森の会
事業概要 （目的）	人工林から照葉樹林の復元に必要な具体的手法を決定していくために、自然林に隣接する人工林、二次林において市民参加による林床調査、間伐を行い、その組成、構造、更新状態をモニタリングし、復元方法の検討に寄与する。掃部岳周辺における自然林の垂直分布に関する調査を実施する。		

2010年4月16日、5月11日、11月27日、12月19日、2011年1月25日にそれぞれ町有林（4月と5月）と国有林において市民参加の林床植生調査を実施した。11月の調査は翌日実施される間伐予定箇所において事前の調査を行った。また、12月と1月に実施した調査は2006年10月21日に実施された調査の5年目の再調査にあたる。間伐を行ったため明るくなり乾燥しやすくなるなど環境が変わったためイヌビワやクサギなどパイオニア種が新たに見られた。また、イスノキやヤブニッケイなど林床に見られた実生が少なくなり、やはりパイオニア種であるヒサカキが増加していた。全体の実生種数は30種から26種に減少していた。マンリョウやマツカゼソウなどシカが食べない植物が増加している傾向も見られることから今後も引き続き復元の状況を観察していく必要がある。

調査の成果は「市民参加による自然林と人工林における林床植生調査」というタイトルで2011年5月21日に開催された国際照葉樹林サミットにおいてポスター発表を行った。

その他の調査として2010年10月13日式部岳においてブナ林の植生調査（20m×20mのプロットを設置し、毎木調査と林床植生調査を実施した）、2月19日大森岳周辺データロガーのデータ回収を行った。



2006年11月24日



2011年1月25日

6-2-②

事業名	里山里海 SGA レポート（綾の過去50年の生態系サービスの変化とその要因）の出版	実施主体	NACS-J
		連携先	てるはの森の会
事業概要 （目的）	綾の過去50年の生態系サービスの変化を明らかにした里山里海サブグローバル評価の取り組みを行いクラスターレポートとして提出し、内外に綾の取り組みをアピールするとともに一般に読むことができる印刷物として出版する。		

国連大学高等研究所が2010年10月に開催されたCBD-COP10に合わせて準備していた里山里海サブグローバル評価の西日本クラスターレポートの作成にあたり協力をした。その成果は「日本の里山・里海：日本の社会生態学的生産ランドスケープ 西日本の経験と教訓」という報告書としてまとめられた。また、綾町における過去50年の生態系サービスの変化については「宮崎県綾町周辺の過去50年間の生態系サービスの変化とその要因」という報告書として日本自然保護協会がとりまとめ、てるはの森の会協力のもと印刷した。その結果は照葉樹林を保全し、有機栽培農業を推進してきたことで綾町全体の人間の福利は向上したと考えられるが、その背景には洪水を抑制し農業を推進するためにダムを建設したことでアユの生産量が減少するなど一部の生態系サービスの減少を伴うものでもあった。報告書の最後には今回調査した内容に関しての関係図を示し、要因間の関係についても考察した。



図1 国連高等研究所発行里山里海SGAサブグローバル評価西日本クラスター報告書（2010年3月発行）

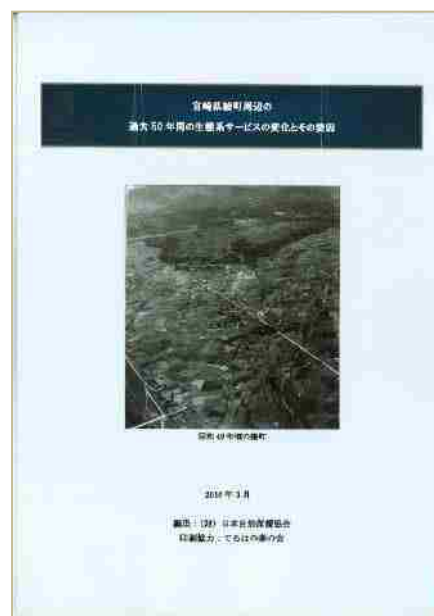


図2 日本自然保護協会発行綾町における過去50年の生態系サービスの変化に関する報告書

6-2-③

事業名	ホームページ等の充実	実施主体	九州森林管理局
事業概要 (目的)	綾の照葉樹林プロジェクトで実施している取組について、局ホームページ等に掲載し広く情報を発信した。		

九州森林管理局ホームページ「森への招待」（綾の照葉樹林）や「広報九州」に、連携会議、ボランティアによる復元作業、事業説明会について掲載した。

「綾の照葉樹林プロジェクト」ホームページアドレス
<http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/aya/index.html>



【綾照葉樹林プロジェクト待ち受け画面】



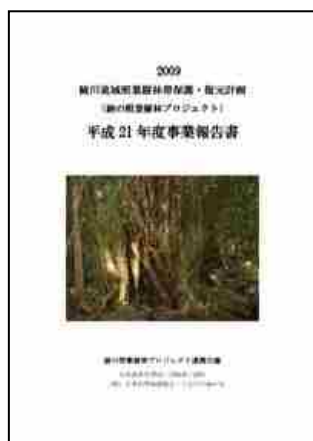
6-2-③

事業名	普及啓発事業(継続)	実施主体	てるはの森の会
		連携先	全
事業概要 (目的)	ホームページの作成やニュースレターの発行、イベントでの展示ブース出展等の広報活動を行なう。 ホームページ上にて報告書を掲載。		

○てるはの森の会のホームページ
<http://www.teruhanomori.com/>

○てるはの森の会事務局ブログ
<http://blog.canpan.info/teruha/>

○2009 綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画報告書
<http://blog.canpan.info/teruha/img/201/2009houk>



○広報誌「照葉樹林だより」の発行
(年4回発行)

- ・第22号 6月25日発行
- ・第23号 9月20日発行
- ・第24号 12月20日発行
- 第5回照葉樹林研究フォーラム要旨集(2010年)
- ・第25号 12月20日発行
- ・第26号 3月20日発行

第5回照葉樹林研究フォーラムの要旨集を、全4回と同様、「照葉樹林だより」の一部に組み込み発行しました。表紙上部にあるISSN番号や号数・ページ数を国立国会図書館へ知らせて文献請求できるようになりました。

○てるはの森の会パンフレット



照葉樹林だより 第26号

6-2-④

事業名	照葉樹林文化シンポジウム運営補助	実施主体	綾町
事業概要 (目的)	実行委員会へ運営補助をする。 昭和 60 年 3 月に「照葉樹林都市宣言」をし、その年に第 1 回照葉樹林文化シンポジウムが開催され、今回で 15 回を数える。 今回は「森がある」ことのしあわせをテーマに、シンポジウムを開催した。		
3 月 20 日（日）綾北川沿い及びてるはの森の宿			
照葉樹林シンポジウム 13:30～ てるはの森の宿 挨拶 綾町長 上野会長 約 50 名の参加 基調講演 14:00～ 鈴木 素直氏 （日本野鳥の会） 「鳥は人のところでなくか」 パネルディスカッション 15：00～ 上野会長、鈴木素直 美郷町より 2 名 コーディネーター 郷田美紀子			
森にふれる （雨の為中止）			
 基調講演  シンポジウム			

6-2-④

事業名	第 5 回照葉樹林研究フォーラムの開催	実施主体	てるはの森の会
		連携先	全 上畑公民館（綾町）
事業概要 （目的）	「国際照葉樹林サミット」の前夜祭として、綾町上畑公民館を会場に住民と研究者が身近に接することのできるフォーラムが企画された。 「国際照葉樹林サミット」が、口蹄疫による非常事態宣言にて延期されたため、当初予定より、規模を縮小し、綾町民とてるはの森の会会員のみの参加で開催された。公民館婦人会の手づくりの料理で交流会が開催され、好評であった。		

○第 5 回照葉樹林研究フォーラム～照葉樹林の自然と生活～




講演会の様子

質疑応答

日時 2010 年 5 月 21 日(金) 15 : 00～18 : 00

場所 綾町上畑公民館 入場料 無料 参加者 56 名

主催：照葉樹林研究フォーラム実行委員会・てるはの森の会・綾町・上畑公民館

後援：国際照葉樹林サミット実行委員会

◆ プログラム

◆主催者あいさつ

6-2-⑤

事業名	国際照葉樹林サミット 2010	実施主体	国際照葉樹林サミット 実行委員会
事業概要 (目的)	「国際照葉樹林サミット」は、宮崎県での口蹄疫の発生を受け、延期した。国連の定める「国際生物多様性の日（5月22日）」に東アジアに広がる照葉樹林をテーマとして、照葉樹林の特性（生物多様性）やそれらが育んできた文化や歴史、森林の保全と利用への取組状況に関する情報の交換を通じ、その重要性を再認識するとともに、照葉樹林を次代によりよい形で引き継ぐことを広くうったえることを目的として開催される予定だった。		

「国際照葉樹林サミット」は、口蹄疫による宮崎県の緊急事態宣言を受け、5月18日延期となった。

- 主催者：「国際照葉樹林サミット」実行委員会
(九州森林管理局、綾町、日本自然保護協会、てるはの森の会、総合地球環境学研究所、NPO法人ひむか維森の会、宮崎県木材青壮年会連合会)
- 日時及び開催場所
期間：2010年5月22日～23日 開催場所：綾町公民館文化ホール
- 参加予定者数

日	内 容	参加予定者数
21 日	照葉樹林研究フォーラム	70 名
22 日	講演会(基調講演・分科会・全体会)	344 名
23 日	エクスカーション(現地見学会)	163 名

延期決定日には、海外からのゲストが日本に到着していたため、21日夕方から、綾町上畑公民館にて前夜祭「照葉樹林研究フォーラム」を綾町民とてるはの森の会会員を中心に56名(講師・スタッフ含)で開催した。たいへん好評であった。1年後同時期開催で準備をすすめている。



チラシ表



チラシ中

6-2-⑤

事業名	事業説明会の開催	実施主体	九州森林管理局
		連携先	連携会議各機関
事業概要 (目的)	綾町民の方々を対象に事業説明会を開催し、各機関の取組等を説明した。		

綾町民の方々に綾の照葉樹林プロジェクトの取組状況を説明する事業説明会を、綾町高年者研修センターで開催した。今年は、各関係機関から、①照葉樹林の保護・復元の取組（宮崎森林管理署）、②宮崎県の保護・復元の取組（宮崎県）、③調査データの蓄積と共有（日本自然保護協会）、④「ユネスコエコパーク」について（綾町）、⑤MAB 計画委員会綾視察について（てるはの森の会）と題し、プロジェクトが発足して5年間の取組と成果を中心に説明を行った。

説明会には地域住民等約 100 名が参加し、予定時間をオーバーした熱の入ったものとなった。

説明会の様子





6-3-①

事業名	環境学習事業(継続)	実施主体	てるはの森の会	
		連携先	綾町	
事業概要 (目的)	①照葉樹林ガイドボランティア実践活動 ②プロジェクトの視察 ③綾の沢調査の実施協力			

①照葉樹林ガイドボランティア実践活動

綾町照葉樹林の代表的景勝地大吊り橋周辺遊歩道2kmをボランティアガイドの案内で散策する。今年度前半は宮崎県内で口蹄疫が発生、12月から大吊り橋が改築工事のため渡れなくなったため、来場者が激減した。

3月26日は昨年に続き上畑体験ツアー（企業向け）を実施した。

参加者合計 14回 213名

実施月	実施回数	参加者数	実施月	実施回数	参加者数	実施月	実施回数	参加者数
4月	なし		8月	なし		12月	1回	15人
5月	1回	1人	9月	1回	2人	1月	なし	
6月	1回	2人	10月	3回	25人	2月	2回	20人
7月	なし		11月	4回	115人	3月	1回	33人

②綾の照葉樹林視察の対応

参加者合計 7回

- 取材対応（4/9 金）MR Tラジオスクーパー
- 取材対応（4/29 木）MR Tラジオスクーパー
- 視察対応（10/15 金）ラオス（JICA）
- 視察対応（10/20 水）環境省委員
- 視察対応（10/26 火～28 木）MAB計画委員
- 取材対応（11/11 木）共同通信（正月号）
- 視察対応(12/9 木)御殿場市高根地区まちづくり



ユネスコ MAB 計画委員視察

③沢調査

- 日本水文・水資源学会大会（9/8）ポスター発表
「宮崎県綾町の照葉樹林帯における河川流量の減少と拡大造林との関係」
- 論文発表「宮崎県綾町の森林流域における河川流量の減少を引き起こす要因」（英文）
Hydrological Reaserch Letters 5, 21-26 (2011)
Factors affecting long-term reduction in river flow in a large forested catchment in Aya, Miyazaki Prefecture, Japan.
Hayashi Yumiko, Takagi Masahiro, Koderi Koji, Kuraji Koichiro, Murakami Tetuo.
- 日本陸水学会弘前大会（9/20）発表
「宮崎県綾町の照葉樹林の溪流のコバントビケラなどの水生昆虫」

6-4-①

事業名	森林セラピー基地整備事業	実施主体	綾町
事業概要 (目的)	日本有数の照葉樹林地帯である綾町は、平成19年3月22日に「森林セラピー基地」としての認定を受けた。そこで照葉樹林を含めた森林地帯をますます有効な地域資源として活用するため、森林・産業・観光・健康増進を組み合わせ、地域振興に資することを目的とする		

① 森の案内人定例会

森林セラピーに従事していただく森の案内人（17名）による定例会を開催。毎月定例にすることで、案内人同士のセラピーに対する考え方の統一性を図り、またお互いの情報交換の場であったり、スキルアップにも繋げている。

またそれぞれで部会を作り、今後のイベント（ツアーなど）等の企画立案を行ったり、マップやPRチラシを作成するなど、積極的に森林セラピーの推進に努めている。

② 森林セラピー関係機関会議

九州・沖縄森林セラピー基地で設立を予定している「九州・沖縄森林セラピー基地ネットワーク会議」への設立にむけての会議や研修会に参加し、各基地と情報交換を行った。

③ コース等整備

森林セラピーコースの充実化・安全性を高めるためコースの整備を行った。また、新たなコース設定のための整備も行った。



森の案内人の会定例会



セラピー体験

7-1-①

事業名	地域づくりワーキングの設置と運営	実施主体	てるはの森の会
		連携先	綾町
事業概要 (目的)	地域づくりWGは、綾プロジェクトの推進体制や当プロジェクトを活用した地域振興等に関する事項を検討することを目的とする。 ①6/10 ②7/1 ③8/5 ④9/9 ⑤10/7 ⑥11/26 ⑦1/13 ⑧2/3⑨3/22 の全9回実施		

綾プロ連携会議に地域づくりWGから、ユネスコエコパークの指定申請に向けて取組ように提言した。また、ユネスコエコパークの審査委員である国際MAB委員来綾に際し、地域づくりWGがパワーポイントを使い、綾町の紹介を行った。たいへん好評であった。

今後は、ユネスコエコパークを活用した町づくりのために、新しい綾町マップを製作する予定である。



会議の様子



MAB 委員歓迎会

回	日 程	講 座 内 容	参加人数
1	H22.6月10日(木) 19:00~21:00	今年度の地域づくりWGについて MAB計画について	11名
2	H22.7月1日(月) 19:00~21:00	地域づくりWGからの提言	10名
3	H22.8月5日(木) 19:00~21:00	講義「景観維持及び優れた景観づくりのための条例等の施策」について 提言を推進するためには	8名
4	H22.9月9日(木) 19:00~21:00	報告：第12回連携会議での提言について MAB計画委員来綾について	9名
5	H22.10月7日(木) 19:00~21:00	MAB計画委員来綾について ・町民によるオリエンテーション	8名
6	H22.11月26日(火) 20:45~22:45	MAB計画委員歓迎会 ・町民によるオリエンテーション	11名
7	H23.1月13日(木) 19:00~21:00	MAB計画の広報方法について	5名
8	H23.2月3日(木) 19:00~21:00	ユネスコエコパークを利用した町づくり	7名
9	H23.3月22日(火) 19:00~21:00	ユネスコエコパークを利用した町づくり 「国際照葉樹林サミット2011」について	10名

7-1-②

事業名	照葉大吊橋ビジターセンター運営事業	実施主体	てるはの森の会・
		連携先	綾町
事業概要 (目的)	照葉大吊橋食堂跡地において、「てるは森の驛」(1F:無料休憩所、照葉樹林に関するパネル等を展示するネイチャーセンター、3F:飲食物を提供する軽食堂)を運営する。		

○3F:飲食物を提供する軽食堂「てるは森の驛」、土・日の週2日の営業。

昨年9月より綾照葉樹林大吊橋架け替え工事に伴い、閉店中。



書籍等の販売



食堂のようす



1Fネイチャーセンター

○2F 和室をガイド及び作業道具置き場として活用

7-1-③

事業名	ふれあい調査の実施(古屋地区)	実施主体	NACS-J
		連携先	てるはの森の会 綾町
事業概要 (目的)	町民参加により綾地域における人と自然とのふれあい、地域の人たちが大切にしている自然、ふれあいについて把握する調査を実施する。その結果を「ふれあいマップ」に表示したり、冊子にまとめるなど人々の思いや自然とのかかわりを可視化する。これを照葉樹林プロジェクトにおける地域づくりの資料として活用し、綾の照葉樹林と共存する地域の人たちが望む持続可能な地域づくりの実現につなげる。		

これまでふれあい調査を行って来た上畑地区とは違い、照葉樹林からは少し離れた古屋地区において、地域の人たちと自然とのふれあい(土地の自然に対する思い、生活での自然とのかかわり、照葉樹林とのかかわり等)を調べることで、地域の自然とくらし、文化、歴史など地域の価値を再発見する。その結果を冊子としてまとめることで、人々の思いや自然とのかかわりを記録として残す。これを照葉樹林プロジェクトにおける資料として活用し、人々の思いを大切にしながら、住民参加のもと、照葉樹林の保護・復元を進めるものである。

2010年10月18日に古屋地区の公民館において公民館長、東京大学の鬼頭先生らと共に計画の打ち合わせを行った。その際に地域を歩き、現地調査を行った。また、古屋地区にある大平山、古屋、尾原の3つの地域でそれぞれ10月22日、11月11日、2月28日に聞き取り調査を実施した。これらの結果に基づき、3月1日に再度打ち合わせを実施し、これまでの調査の話をまとめた結果、古屋地区における自然とのふれあいは以下の8つに分類された。

- ①水の苦労：綾南川よりも高い位置にあり水が少なく生活に苦労した
- ②池干：そのため、集落には古屋池があり、毎年池干を行っていた。
- ③三本松：昔、草刈り場に松が3本立っていた。
- ④川と橋：綾の街中に行くための橋の位置のはなし
- ⑤田んぼや岸のかわはぎ（あぜきり）
- ⑥牛馬・馬車：昔は馬車が通っていた
- ⑦地域に根ざした神様
- ⑧郷土料理



2010年10月18日の調査



同日、現地調査のルートと発見したもの



照葉樹林文化館 改装オープン

宮日新聞 2010年4月4日



綾町 森歩きの HP 開設

宮日新聞 2010年5月8日

2010/5/16 (日) 宮日

第三編 環境部

日

綾町・22日から国際照葉樹林サミット

照葉樹林の保護や復元、生物多様性の回復や保全、生態系サービスの向上などについて国内外の研究者や自然保護団体などが集まる「国際照葉樹林サミット」(国際学術会議)が22、23日、綾町で初めて開催される。「サミット」を契機に照葉樹林保護のネットワークを築きたい。「国際的な価値を高める」と。関係者の期待は高い。

(綾町副市長・中野亮児)

「綾町中野副市長は、森林保護と生物多様性保全の国際的連携を促す。サミットの意義は大きい」と。同日、綾町で開催されている照葉樹林の保護・復元活動「綾の照葉樹林プロジェクト(綾フロ)」の実施団体の一つである綾町の会の上野代表は語った。

サミットが開催されるのは

森の復元世界へ発信

綾町は、国際的な環境保護への関心が高まっている。このような中で、綾町の森の復元活動は、国際的な連携を促す。サミットの開催は、綾町の森の復元活動のPRになる。

生態系保護
連携に期待

綾町副市長は、綾町の森の復元活動は、国際的な連携を促す。サミットの開催は、綾町の森の復元活動のPRになる。



国内最大規模を誇る綾町の照葉樹林。サミットでは国内外の照葉樹林の保護や復元などについて話し合う

「先人が残した森を世界に伝える」として位置付けたい」と前出副市長。サミットを通じて照葉樹林の価値を共有し、国際的な連携を促す。綾町は、綾町の森の復元活動のPRになる。

綾町副市長

ふるさと
ナビ

2010/5/9 (日)

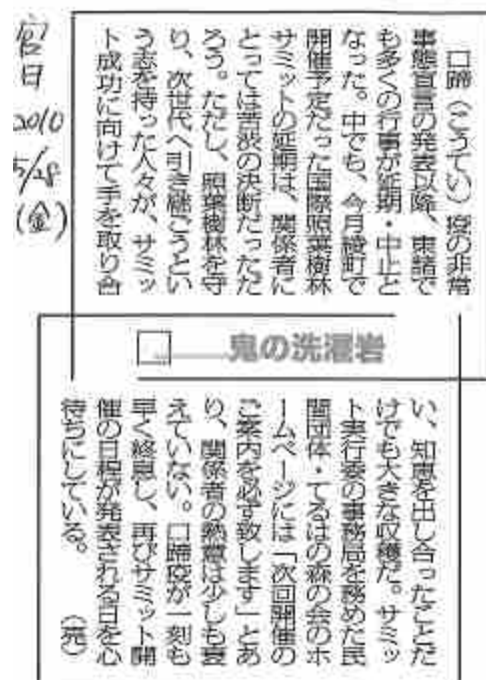
照葉樹林保護考えよう

綾で22、23日初開催

生物多様性など議論

綾町は、綾町の森の復元活動のPRになる。

国際照葉樹林サミット開催
宮日新聞 2010年5月16日 他



国際照葉樹林サミット延期 宮日新聞 2010年5月28日



綾でるは図書館の企画展 宮日新聞 2010年6月20日

官日 2010 6/25 (金)

事業が完結するのははるか
先だ。国内最大規模を誇る綾
町の照葉樹林を保護・復元す
る「綾の照葉樹林プロジェクト」(綾プロ)は、世代を隔
えて引き継がれていく壮大で
先進的な取り組み。どこまで
も広がる照葉樹林を想像する
だけでも楽しい。森の中で照
葉樹が芽吹いているのを見た
ことがある。まだ小さいが、

関係者が復元への願いを託す
希望の象徴だ。将来、どんな
困難に直面されても、関係者
の熱意で乗り越えてほしい。
何事も先駆者は大変だが、そ
の後を継ぐ者を守る志のある人
がきこえている。綾プロ
には関わりが深い。市民
が携わることでできる事業
もある。興味がある人はぜひ
参加してほしい。
(亮)

鬼の洗濯岩

綾プロの紹介

宮日新聞 2010年6月25日

6.29朝日 郷土の本

照葉樹林って何だろう？
上野登著

常緑の広葉樹林を意味する「照葉樹林」という言葉。綾町には、日本最大級の照葉樹林帯が残されているという。

宮崎大学名誉教授の著者は、綾町長として森林を守り独自の町づくりを進めた。

故・郷田實さんの考え方と実績を紹介。自らも綾町の森の「保護」「再生」「復元」運動に取り組んだ経緯を記している。

さらに「照葉樹林は綾だけではない」として、県央・県南の照葉樹林を回廊のように「復元」しようという動きにも触れる。

クスや茶、シソなどの食文化、絹や漆などの生活・工芸品を育んだ照葉樹林。著者は文化の側面からも照葉樹林の重要性を訴える。

円 (銀脈社、1400)

本の紹介 「照葉樹林って何だろう」

朝日新聞 2010年6月29日

カメラ記行 日本百選

水辺の森百選
綾の照葉樹林

站 訂

林豐升 1995 年調查

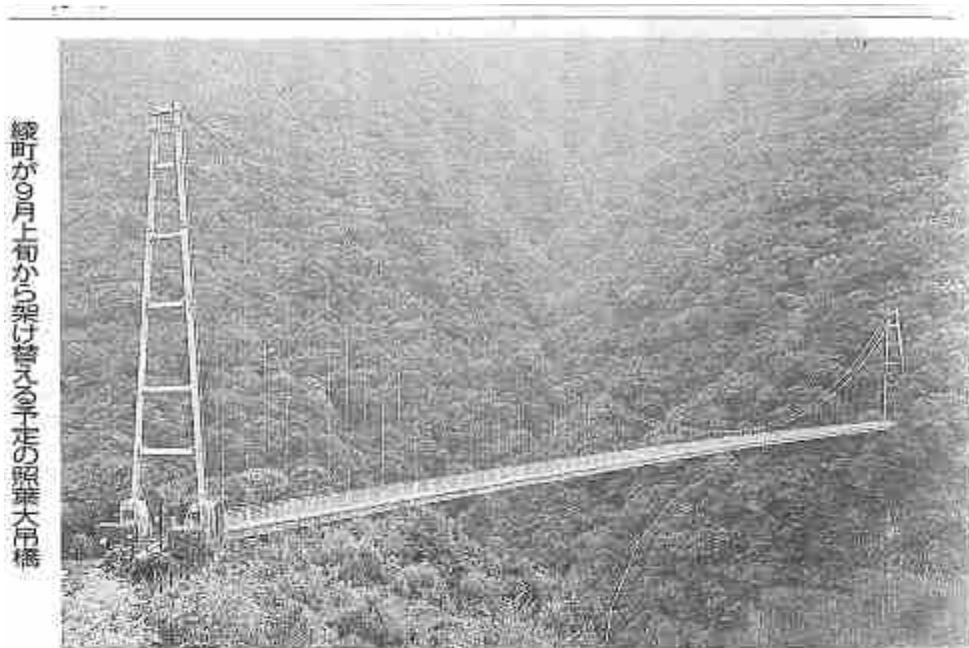


「それは海外で既に生産する競争力を失っている。30年自然の回復コースは開発森林に回復まで待てるという。ガイドが海外、他国に売って市場を拡大できる。町田林とラニーは森林再生事業の目標(0000/77/0100)。

[illegible]

「ふとが思いのときは高直に高いし、
い」。学校の噂り道にのちを聞き手と
もたら(左下)。秋の極端な型をつか
むように大きく広がる。静寂と真実感
に心が通われる(右下)。秋の極端は
静かな土壌になつてふりと水を蓄える
「静けさ云々」。秋の極端の美しさは
静けさの清浄さはよくみえている。

45



綴町が9月上旬から架け替える予定の照葉大吊橋

官日 2010/08/03 (火)
完成26年

橋吊大綾 架け替え

綾町は、完成から28年経
過した同町南側の照葉大吊
橋（しらはおひりばし）

の架け替え工事を9月上旬から始める。完成は来年4月を予定。現在の橋の形と

ほぼ同じで、手すり部分のデザインを委ねるといふ。同町の観光スポットでもあり、工事中も現場近くで作業の様子を見学できるようになる。

大葉の照葉樹の24-11-14

来月
から
来年4月完成予定

吊橋は1984（昭和59）年3月に完成した。昭葉樹林都市・綾町のシンボルとして、年間約14万人が訪れる県内でも人気の銅光スボット。雄大な自然と触れ合える場所としても親しまれてきた。

計画では、橋の主塔部分はそのまま残し、足場やワイヤなどを順次取り換えていく。耐風性を確保しながら足場の部分の軽量化を図るほか、手すり部分のデザインは変更するという。総事業費は約3億円。

照葉大吊橋をばに立つ照葉樹林文化館は工事中も引き続き開館。同町産業観光課では「リニューアルされた照葉大吊橋にたくさんの人に来てもらい、照葉樹林の素晴らしさを知ってほしい」と話している。

綾の照葉大吊橋架け替え
宮日新聞 2010年8月3日

綾町の前田綾町長は9日、国内最大規模を誇る綾の照葉樹林について、ユネスコの国際自然保護区制度「ユネスコ・エコパーク」への登録を目指す考えを明らかにした。

エコパークは自然保護と自然資源の利用を同時に推進するもので、ユネスコが世界自然遺産と並ぶ重要項目に位置付けている。実現すれば国内5カ所目となる。

エコパークは、人間と自然との共生実現に向け、ユネスコが認定させた「人間の利用を進める。」「生物圏計画（MAB計画）」の主要事業。登録された地域は、原生的な自然を厳重に保護する「核心地（長野）、屋久島（鹿児島）」のエリア設定や管理計画の作成などを行う。綾の照葉樹林は、原生林が多く残る約167haが国の保護林制度で最も規制が厳しい

2010/08/10(火) 官日 **ユネスコ・エコパーク**

綾照葉樹林申請へ

綾町は国内の候補地に選ばれた場合、日本ユネスコ国内委員会が登録の申請書を来年4月30日までにユネスコ事務局（パリ）へ提出。専門家による諮問などを経て、来年秋にも判断が示される。

前田町長は「綾町は自然と調和したまちづくりを町の発展に結び付けてきた。ユネスコエコパークを自指す基盤はすでにできている」と思い、手を挙げることにした」と理由を説明している。

綾町は、教育や学術研究で活用する「綾町地帯」、人が大台ヶ原・大峰山（奈良）生活や経済活動ができる、の4カ所が指定を受けている。今後、町などはエコパークだ。

「移行地域」の3エリアに

「森林生態系保護地域」に指定されていることから、この地域を中心に選定を進めていくことになりそう

町など **保護や資源利用推進**

ユネスコエコパーク 申請へ
宮日新聞 2010年8月10日

宮日新聞

2010年(平成22年)8月23日 月曜日

社 会 (22)

世界の

照葉樹林へ

「エコパーク」目指す綾町

● 上 ●

国内最大規模を誇る綾

の照葉樹林を、「ユネス

コ・エコパーク(生物圏

保存地域)」に。綾町

は「世界自然遺産」と並

行して、同じユネスコの

認定制度である「エコパ

ーク」の登録を目指して

いる。「自然との共生」

という町の方針と重なる

理念に、関係者の期待も

高まっている。

(東照支局長・甲斐亮

児)

「先人から受け継いだ綾

の森を世界の宝物にした

い」。綾町の前田頼町長

は、登録への思いを力強く

語る。自然保護に重きを置

く世界遺産に対し、「人と

自然との共生」を重視する

エコパーク。綾のまちづく

りは、まさに自然との共生

高まる地域ブランド

意 義

の上に成り立ってきた。

1973(昭和48)年か

と町の動きを支持する。

「エコパーク」に認定され

ば、その価値が世界的に認

められるのはもちろん、観

光客の増加や農産物の付加

価値アップなど、長年積み

上げてきた「綾ブランド」

がさらに高まることが期待

される。

ユネスコ・エコパーク

人間と自然との共生に向

け、ユネスコが策定した

「人間と生物圏計画(MA

B計画)」の主要事業。登

録された地域は原生的な

自然を厳重に保護する「核

心地域」、教育や学術研究

メ

モ

で活用する「緩衝地帯」、

人が生活できる「移行地

域」の3エリアに色分けさ

れる。志賀高原(長野)、

屋久島(鹿児島)、白山

(石川など)、大台ヶ原・

大峰山(奈良)の国内4地

域を含む世界109カ所・

584地域が登録されてい

る。

誘客や産業振興に効果



照葉大吊橋から臨んだ照葉樹林。ユネスコ・エコパークへの登録を目指している

世界遺産に比べると国内

での知名度は低い。日本

MAB計画委員会事務局

(横浜市)は「ユネスコの

国際認定というブランド価

値は世界に浸透している。

特に欧州では世界自然遺産

と並んでエコパークが活用

されている」と指摘。エコ

パークの登録地では、エコ

ツアーなどによる観光客誘

致や地場産業の振興が盛ん

で、地域活性化にも貢献し

ているという。

大澤さんは「世界の自然

保護をリードしていく制

度。綾が認定されれば、国

内のほかの地域の管理運営

にも大きな影響を与えるた

ろう」と意気込みを語った。

「エコパーク」目指す綾町 上
宮日新聞 2010年8月23日

聞

官日

2010年(平成22年)8月24日 火曜日

社 会 (22)

世界の

照葉樹林へ

「エコパーク」目指す綾町

● 下 ●

「人と自然との共生」をた。

掲げるユネスコ・エコパーク(生物圏保存地域)の登録には、積極的な住民の参加が欠かせない。

綾町ではこれまでも、照葉樹林の保護・復元を目指す活動が行われてきた。2005年に始まった「綾の照葉樹林プロジェクト」もその一つ。この中に設置された地域活性化のワーキンググループ(17人)は今年、「登録されれば」住民が照葉樹林の恵みと保全について学ぶ機会になる」と、エコパークへの積極的な取り組みを町に提言した。

背景には、これまで保護活動のすそ野がなかなか広がらなかったことがある。地元住民の関心を高めることは長年の課題でもあった。

展 望

住民の積極参画が鍵

グループのメンバーで、

輪が広がればと期待する。同時に、綾町以外に登録を目指しているのは、南アルプスを推す静岡、山梨、長野の3県10市町村。事務局の山梨県南アルプス市みどり自然課は「知名度アップにより観光

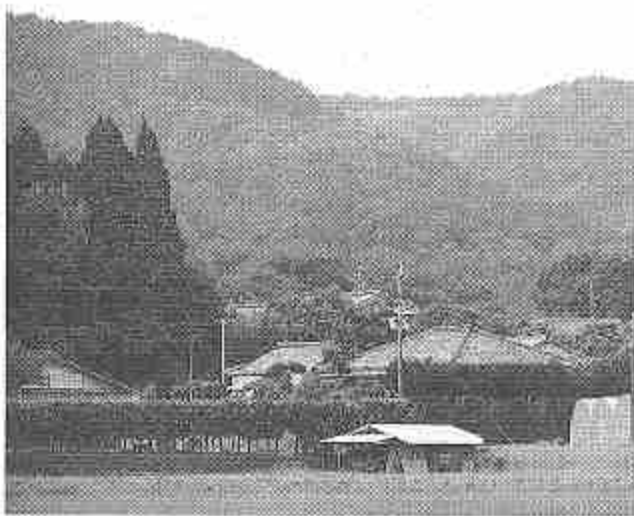
面での競争に結び付けられる」とその効果を説明する。

同町の上畑自治公民館の小西俊一館長は「活動を通して住民も少しずつ綾の森の価値を感じ始めている」とし、「エコパークへの取り組みを通じてさらに

メ モ

ユネスコ・エコパーク登録の要件、申請書は全20項目。地形、地質、気候、生物、生態系といった自然科学的な記載だけでなく、エリアに含まれる中山地域の社会的、歴史的、文化的、経済的要因についても記載する必要がある。また、登録に際しての住民の合意形成のプロセスや、認定後の管理運営体制の中に住民参加の仕組みがあるかどうかなども問われる。認定後は、保全管理がきちんとなされているか定期的に調査される。

森の価値少しずつ浸透



照葉樹林のふもとに広がる綾の風景。「人と自然との共生」が受け継がれている

スコ関係者を町に招き、PRする計画も練っている。関係者によると、県内の町照葉樹林文化推進専門監登録4地域は世界自然遺産や国立公園であることもあり、エコパークを前面に出したPRはしていない。一方の綾町は、国際的な

「エコパーク」目指す綾町 下
宮日新聞 2010年8月24日



間伐後、そのままに放置されているスギ。宮崎文化本舗の事業では有効利用につなげたい考え（てるはの森の会提供）

宮崎文化本舗 間伐材使い製品開発

宮日新聞
2010年8月31日

環境省モデル事業選定

環境省が公募していた自然資源を活用・保全するモデル実証事業に、宮崎市のNPO法人「宮崎文化本舗」（石田 達也理事長）が申請した間伐材を中心とした木工製品の開発・販売事業が選ばれた。同法人は、宮民らで綾の照葉

樹林を保護・復元する「綾の照葉樹林プロジェクト」（綾プロ）の事務局・てるはの森の会を運営。事業収益で運営基盤を強化し、間伐材の有効利用につなげたい考えだ。

2005年から始まった綾プロでは、スギなどの人工林を間伐して日光が地面に届くようにし、動物や風が通んでくる照葉樹の種の自然な芽吹きを促す取り組みを続けていた。ただ、民間ボランティアが間伐を行った間伐材は搬出コストが掛かることもあり、そのまま放置され、利用が進んでいないという。

同法人はこの課題を解決するため、事業に手を挙げることにした。来月にも間伐材を使ったインテリアグッズなどの開発をスタート。来年3月までに製品開発や販売計画の作成などを終え、来年度から

売り込みを始める計画。モデル実証事業に選ばれたことで、環境省から補助金が出るほか、専門家のアドバイスが受けられる。

石田理事長は「間伐材を生かす仕組みづくりを進めて、綾プロの活性化にもつなげたい」と話していた。

間伐材使い製品開発
宮日新聞 2010年8月31日

2010. 10. 11. 朝日新聞

民

国産材活用推進

間伐されたまま放置されたスギ。木工製品への利用が森復元につながるかと期待する＝綾町



綾の照葉樹林（綾町）の森の保護と復元を目指す。スギの間伐を進める「てるはの森の会」を運営するNPO法人「高崎文化本舗（高崎市、石田達也代表理事）が、環境省が公募した事業型の環境NPOなどを支援するモデル実証事業に採択され、間伐材を活用した木工製品の販売に乗り出す。石田代表理事は「間伐材の活用で継続的な事業が可能となり、森の復元につながる」と期待する。（山下哲弥）

綾の照葉樹林復元活動発展

スギ間伐材 木工製品に



スギの間伐材で試作されたポスター用の木枠（いずれも「てるはの森の会」提供）

現在、試作品を製作中で、11月上旬の「東京おもちゃ美術館」や、来年1月に高崎市のアートセンターで開く同美術館のイベントなどに出席する。この環境省の事業は、公的資金に依存しがちな多くの環境関連のNPOや公益企業、民間企業が自立したビジネスができるよう、モデルづくりを支援する目的で始まった。今年8月、30件の応募のうち8件が採択された。同本舗の事業は、間伐材を活用した商品の開発販売で自主財源を確保し、綾の照葉樹林の保護・復元を推進するという内容となっている。

NPO事業を 放置、もったいない

は九州森林管理局、県、綾町、日本自然保護協会（東京）と組織した「綾の照葉樹林プロジェクト」の事務局を務め、2005年の発足以来、様々な活動を実施している。年々、ボランティアと綾町内の照葉樹林が残る地域で、人工林のスギ、ヒノキの間伐が続けている。林内に日光を入れることで照葉樹の自然発生を促すのが狙いだ。事務局の相馬美佐子さん（51）は「間伐したもの、運び出すにはコストもかかり、活用方法もないため放置され、ずっと悩んでいた。参加するボランティアも『もったいない』『何かに使えないのか』と同じ気持ちだった」という。

事業の採択を受け、さっそく地元デザイナーや木工業者と連携し、ポスターパネルやパネルスタンドの試作品を製作中。各地のイベントに出展し、来場者にアンケートを実施して県内外の消費者の反応を探るといふ。製品はオンラインショップからのアドバイスや事業の精査を受けた後、来年4月から販売が開始される。

相馬さんは「間伐材の木工製品を賣うことが照葉樹林の保護や復元につながる。こうしたことをアピールすること、事業が軌道に乗ればうれしい」と話している。

スギ間伐材 木工製品に
朝日新聞 2010年10月11日

綾の照葉樹林プロジェクト

綾の照葉樹林復元に向けたスギの間伐を体験する
ラオスの公務員（左）



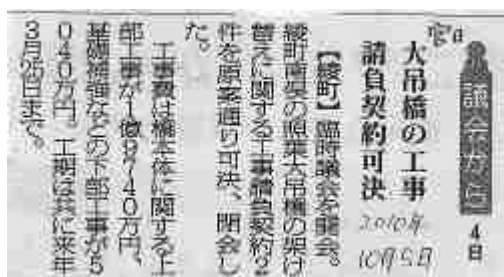
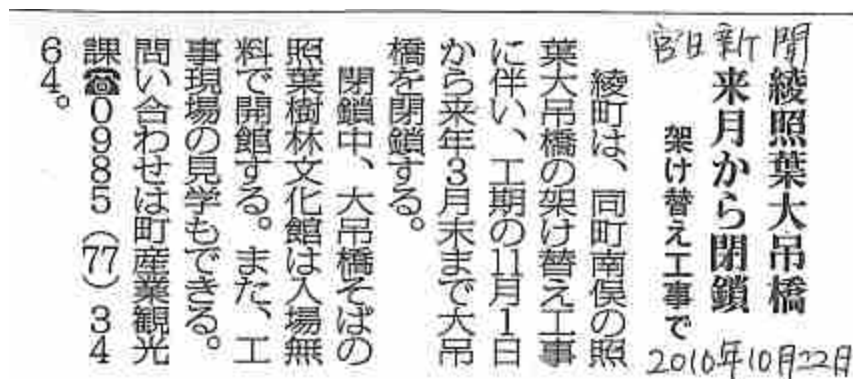
綾の照葉樹林復元に向けたスギの間伐を体験する
ラオスの公務員（左）

綾の照葉樹林復元に向けたスギの間伐を体験する
ラオスの公務員（左）

ラオス公務員 綾で研修
宮日新聞 2010年10月16日



架け替え工事安全願う
宮日新聞 2010年10月19日



綾の照葉大吊橋 来月から閉鎖
宮日新聞 2010年10月22日 他

2010年10月28日 宮日

第三種郵便物認可

ユネスコ関係者が綾視察

自然との共生感銘

エコパーク申請向け招待

ユネスコが認定する「ユネスコ・エコパーク（生物圏保護地域）」登録を目指す綾町



河野さん（左）から照葉樹林についての説明を聞く
洪教授（左から2番目）、パーシク専門官
（右）、鈴木学長（右から2番目）

に28日、ユネスコ関係者3人が綾町を訪れた。認定申請前に関係者へアピールしようと町が3人を招待。3人は自然に根付いた綾町のまちなみ

を高く評価した。

3人は、ユネスコ本部のMAB（人間と生物圏）計画委員会のアナ・パーシク専門官、日本ユネスコ国内委員会

MAB計画分科会主席横濱国立大学の鈴木邦雄学長、韓国のエコパーク認定に携わった韓国・木浦大学の洪基教授。

照葉樹林では、河野三・町照葉樹林文化推進専門監が、保護・復元事業、綾の照葉樹林プロジェクト（綾フロ）などについて説明。有機農業の現場や、綾産の木材や土を使った土器、地元幼稚園のネイチャーゲームなども視察し、自然資源の利用や環境教育について理解を深めた。

パーシク専門官は「綾のまちなみはMABの理念と合致している。綾フロの取組も印象に残った」。洪教授は「住民の意識が高く、エコパークに選ばれる可能性は高いと思う」とそれぞれ感銘を語った。鈴木学長は「綾のまちなみは自然との共生のモデルケース」と感銘を受けた。

エコパークは人と自然の共生を目指す。ユネスコが認定した「MAB計画」の主要事業。同町は、国際的な評価が得られれば今後の町づくりに生かせるとして、認定に向けて申請を準備している。

ユネスコ関係者が綾視察

宮日新聞 2010年10月28日

エコパーク認定目指す綾視察

ユネスコが認定する「ユネスコ・エコパーク（生物圏保存地域）」の登録を目指す綾町は、国内候補地の選定に携わる関係者ら3人を招待。認定申請前に綾の森の魅力をアピールした。関係者の一人、「日本ユネスコ国内委員会MAB計画分科会」のトップで、横浜国立大学長の鈴木邦雄さん（82）に、視察の評価やエコパークをめぐる国内外の動きについて聞いた。（聞き手 東諸支局長・甲斐亮児）



ユネスコ分科会トップ 鈴木 邦雄さんに聞く

宮日新聞
2010年10月30日

自然素晴らしい

共生推進し町が活性化

綾町の印象は、鈴木 照葉樹林をはじめとする綾町の自然は素晴らしいとあらためて思った。この自然を生かそうという町民の情熱にも感心した。

はなく、ともに歩んでいこうというのが世界の自然保護の流れ。「人と自然の共生」を目指すエコパークへの関心は高く、現在109カ国・564地域が登録し、今も世界

鈴木 登録を目指して

「エコパークをめぐる世界の情勢はどうか。」鈴木 自然を厳重に保護で遠い存在になるので

中登録を目指す動きがある。国内の動向はどうか。鈴木 国内の登録は4地域でエコパークの知名度はまだ低いですが、世界に追い付こうと国としても今後、積極的に登録を推進していく。現在綾町を含め、世界自然遺産の知床（北海道）

いる6地域のうち、最も申請への動きが活発だ。自然との共生が積極的に推進され、町が活性化している点がいい。個人的には今申請しても何の問題もないと思う。

鈴木 エコパークに登録されれば注目を集め、観光客も増えるだろうが、受け身ではいけない。エコパークをどう活用するかを考えておかなければならない。積極的なPRはもちろん、登録を契機にして、埋もれていた町の魅力を掘り起こす努力も必要だ。綾町がエコパークを生かしたまちづくりのモデルケースになれば、ほかの地域も登録を目指すところだろう。

ユネスコ分科会トップ 鈴木邦雄さんに聞く
宮日新聞 2010年10月30日

日向夏ミカンちゃん エネスコが認定する「エネスコ・エコパーク（生物圏保存地域）」登録を目指す綾市に、エネスコ関係者の視察が来たというニュースがあったわね。この中に出てきた「MAB計画」について教えて。

記者 MAB計画は正式名称を「人間と生物圏計画（Man and the Biosphere programme）」といい、国連を頂いてMAB計画と呼ばれています。

ミ どんな計画なの？

記 人と自然の共生を目指して、1971（昭和46）年にエネスコが策定した国際的な自然保護の取り組みです。エコパークはこの計画の中で、共生を推進させたり、課題解決を図ったりするための大切なモデル事業に位置づけられており、鹿児島（奥平自然公園）など国内4地域を含む世界1000カ国564地域が登録、全世界でネットワークを組んでいます。

質問箱

MAB計画って何？



宮日新聞 2010年11月1日

ミ 世界的な自然保護の取り組みとして「世界自然遺産」もあるけど、エコパーク。

記 エコパークもエネスコが認定するものですが、世界遺産は自然を保護する目的で、エコパークは人間と自然の共生を促す目的で、MAB計画では保護と合わせて「自然と共生を目指す」方法をみんなに伝えてもらい、実行してもらおう。自然を破壊しない範囲で積極的に利用することを推進しています。このため土地利用など世間で厳しい制限を設けては、（東証支局長・中津淳児）

ミ ほかにどんな事業をしているの？

記 多様な生物を守るための研究や教育、生物資源の利用方法の研究など、環境問題全般に取り組みしています。研究の成果はエコパークのネットワークを通じて伝えられます。奨学金制度もあり、若い研究者を積極的に育てています。

ミ 日本ではどんなの？

記 世界ではMAB計画は広く知られ、特にエコパークは観光資源や環境教育などで役立てられています。日本では知名度は低いのですが、国は今後観光と普及に力を入れていくことにしています。照葉樹林の保護や有機農業など、自然と共生したまちづくりのモデル地として、今後でも多く呼ばれています。

自然と共生を目指す国際事業です

MAB 計画って何？

宮日新聞 2010年11月1日

宮日新聞 2010.11.13

◇照葉樹林復元ボランティア募集

28日午前8時半から、綾町南保の川中神社周辺の国有林。照葉樹の自然な芽吹きを促すため、人工林のスキを開伐する。当日は作業ができる服装で弁当やタオルなどは各自持参。定員20人。15日締め切り。てるはの森の会 0985(36)7288。

照葉樹林復元ボランティア募集

宮日新聞 2010年11月13日

多様な命育む森

大宮、清洲に飛渡り、豊かな森林地に見取り絶好の琵琶田主体、水溜の森づくりをすすめる市民の会（顧問：倉川肇吉）が、毎秋、市役所を訪問して、8月10日となる今年のフィルドは、日本最大級の織物の開張産地、織町岡原産林文化推進委員会の海野町三さん邸の事件で、厚生課の情事と職人生命と、森の恩恵を受けてきた人の生活の面影をのぞいた。（市報）



「太田さん求めて、闘い合ってまっすぐ
伸びていくんです」と河野精三さん

鱖の照葉樹林を歩く

2010年11月16日

共生の痕跡、あちこちに

種別投資である。この部分、而
約南米の山中自然公園に参加者
約10人集まつた。麓に川になが
かる浅瀬の小きなつり橋が、
森の入り口だ。

想像を話ながら聞かされた場
があつた。かつての家来の跡
だ。手入れが行き届いた芝を
一面見ているのは、実はシ
カ、即ち先か食されてくれ
る。近々の狩物としてはタヌキ
をイナシメ殺さず煮てしま
う人が野生動物の生産量が落
下した懸念だ。

鹿野郎さんの解題を聴いたら
夢とこの説明だ。この日のコ
ースにも大きなイチイガシに書
いた。直達約1・7分、鹿野郎
師は60年、開路約100年には

どの鹿も木比べで存在確認し
た。一本こりが数隻を惹
いてゐる。あふれぬおとなつのでこ
へん。と鹿野郎さんは言う。

枝には蜜ツランが得意だし、ま
るで全体で一層の生命のよう
だ。しかし、併には必ずして鷹狩
所、鷹狩所、鷹狩所。鷹狩は
おどろきの声。

下山途中の鹿野郎には、鹿歩は
ユウゴノキや、イチイガシの
根が地盤より高く立上った上
に散らばる樹皮の下に接合も
その根元には樹皮の剥けもある。
土が白く乾き切れない
ほど、の生息を指す。「多摩川は
原生林がなくて悪い」。一軒旅館は
の解説を取加減するが足りない。
そんな鹿野郎でも人がつく

った材料の頭がある。そこ
は本来の林に近づけること。と
りて鹿野郎はサングラスにア
による開放を目的に行われている。
登山道の一部は、かつて
掘り出した財宝を運ぶ道にお
覆われたトラコ軌道の跡もあり
が、今では敷道をあらわなく
と分らないくらいに風化して
いた。

数東谷は林が深まる10月頃日
に行かれたが、鹿野郎氏は常時
の広葉樹のため、紅葉は見られ
ない。それでも、小さな子供た
ちも参加し、鹿を視察させた。
て約りて歩き出した。あ、神
様ごこれにて止むというべし」
と鹿野郎さん。この子たちのため
に、この祭を興行していた。

● 兵庫の過半数を占める市民の会
 1996年6月、大畑川、清
 西川の水質改善を目標とし、両端
 に位置する市界を跨ぐ「山崎川
 釣行会」が、会を組織した。釣
 行の「わくわく釣会」の千人
 れや、年一回の「藤子くろの清
 湖会」・「毒の発見」などを行っ
 ていた。会員約500人



釧路川沿いのわき水近くで、サワガニが産を登っていた。



壁に草樹林で、無類の大きなイデ
イガシに抱きつき、耳を濡らす人も

水源の森づくりをすすめる市民の会 綾の森を散策
朝日新聞 2010年11月16日

記者
ノート

先月、名古屋市中であった「生動物多様性条約第10回締約国会議」(OPO)にて、日本は豊かな自然と多様な生物を誇る「アイヌ」として、日本の伝統的な「里山」を世界にアピールした。自然を守り、個性を、恩恵を享ける。里山はこの会議で日本が訴えた「自然の共生」そのもののなだ。

国内最大規模の原野集結がある蔵町では、町営地を利用した「里山づくり」が進められている。冬、四季を感じられるように、樹木や草花を植えた「里山の多様性」は、移の方で「元気なまち」を意味する「げんき道」の象徴だ。

里山を子どもたちに

「櫻の子」をたしには、雄と雌の
体障が少い」。養牛、彼の至要な
樹林の研究に携わつてきた鶴野町
樹林文化推進専ら「郷の河野三
さん」は、彼等として来た。彼の祖傳
樹林では、田舎、田舎一休の保護・
復興活動が盛だが、昭和樹林がも
みかえつても、次代を担う子とし
たちが喜に関心を持たなければ難
味がない。「半山は自然と人を惹
きつけるべきになる」。河野さんは
期待を込めて。

社会情勢や生活様式の変化で人々
々は半山から次第に離れ、あるい
は開墾行為で半山自体が消えてい
る。このような事態になり、よう
やく「半山の大切さ」を知り始め
めた。けれど森がなくなり、始
まったのは、森で子どもたちは
遊ぶ光景を想像するだけでも難し
い。昭和樹林の復興同様、森の豊
け取り組みながら、関係者は「後継

里山を子どもたちに
宮日新聞 2010年11月22日

世界に誇る天然林

国連の最新統計では、日本の森林面積は25万平方キロメートル。国土の68%にもなり、世界平均の31%を大きく上回る。

経済先進国の中には、南米のスリナムのように国土の面積にもなる豊かな森を抱える国もあるが、先進国の中ではフィンランドの78%に次ぎ、スウェーデンと同等の「天然林国」だ。

だが、日本の森の中で、手付かずの森は全体の20%にすぎない。そのほかは少なくとも一度は伐採され、その後再び育ってきた二次林が、人間が植え

た人工林だ。

日本では戦後の復興期から高度成長期に多くの天然林が伐採され、杉やヒノキがびっしりと並ぶ人工林に姿を変えてしまった。林業の低迷と林業従事者の高齢化などで、手入れが行き届かなくなった人工林では荒廃が著しい。一方で、国有林などでは、残された貴重な天然林の伐採が嵩み、生物多様性への影響が懸念されている。

国際森林年の今年、日本の森をどう守り、どう利用していくべきか。

人と森の明日 国際森林年に



「人」と「森」の未来を語る。綾町の森と人。

陽光に輝くのは森

綾町

「綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。」

綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。」

綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。」

原生林復活を目指す

綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。」

綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。」

綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。綾町の森は、自然の中で育ち、人々が育つ。」

人と森の明日 国際森林年に
宮日新聞 2011年1月5日

2011年

地域展望

開新
一 下 一
2011年 11月 8日
また、4月には
児童館が開館する
育て支援センタ
童謡として通唱。

展望

開一新下 2011年
また、4月には森永に森永児童館が開館する。午前には子育て支援センター、午後は児童館として運営。これで町内の4小学校区すべてに育児サポートの施設ができることになり、子どもたちや保護者の方に注目したい。

館文化ホールで国内初の「国際照葉樹林サミット」が開催される。国連が定める「国際森林年」の今年、照葉樹林の復元など先進的な取り組みを国内外に発信し、緑が中心となって世界の照葉樹林保護をリードするという意気込みを

の判断が示されることになり
 そうだ。認定されれば照葉樹
 林の価値は世界的に高まり、
 綾のブランド力は向上する。

東諸県郡

国富町では、昭和シェル石油・O.O.多子会社のソーラーフロンティア（東京）が世界最大級の太陽電池製造工場でCIS太陽電池の商業生産を本年度中に始める。

照葉樹林 世界に発信

太陽電池生産で活性化

010925000

交流の拠点とならねばならぬ。嵐 示す場となる。

などの税金増が見込めるのはもちろん、従業員やその家族を町内に呼び込んで商品購買などにつなげ、冷え込んだ経

町は深年、北俣小の同窓校
校舎への企業誘致も進めてい
る。県内でも珍しい取り組み
で、実現すれば雇用創出が期

田では川南地区健康増進センターが4月に開館。体育館や災害時の避難場所として活用が期待される。

ユネスコが認定するユネスコ・エコパーク（生物圏保存地域）登録への準備が進む。町などは早ければ本年度中に

ほしい。かつて一市六町があった奥央地域だが、単独存続の道を歩むのは国言と綾町だけに。生き残りを図るために

内賃住宅や調達が可能な事務用品、飲食店の情報を細かく活気づけたい。町は、町

待できる。現在、興味を示している製造業などとの協議を続けており、今後の交渉の行

国内最大規模を誇る昭葉樹林にスポーツが当たるのは綾町。5月21、22日には町公民館にもユネスコ本部（パリ）も国内選定機関へ登録を申請する方針で、順調に進めば9月にもユネスコ本部（パリ）

も特色あるまちづくりが展開
できるかに着目したい。

（東穂文局長・甲斐亮児）

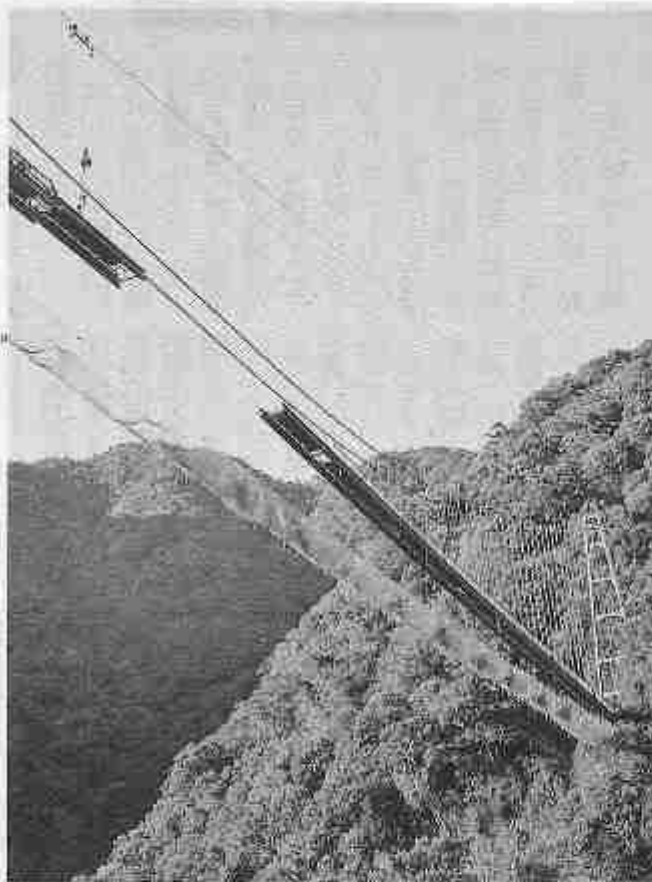
（東華文局長・甲斐亮児）

ルが、照葉樹林の魅力を引き立ててくれるに違いない。

太陽電池生産で活性化

宮日新聞 2011 年 1 月 8 日

綾・照葉大吊橋
架け替え工事で
あすから閉鎖
綾町は、同町南俣の照
葉大吊橋の架け替え工事
に伴い、12月1日から来
年3月末まで大吊橋を閉
鎖する。
閉鎖中、大吊橋そばの
照葉樹林文化館は入場無
料で開館する。また、工
事現場の見学もできる。
問い合わせは町産業観光
課 0995(7)3
464。



綾の象徴 一時の別れ

架け替え工事が進む綾町のシンボルは主部部分町南俣の照葉大吊橋で、を壊していったん撤去さ
橋本体の解体作業が18日、4月には新しい姿で
日、本格的に始まった。お目見えしそうだ。
完成から28年が過ぎた綾 同時にすると、本体内

架け替え工事本格化

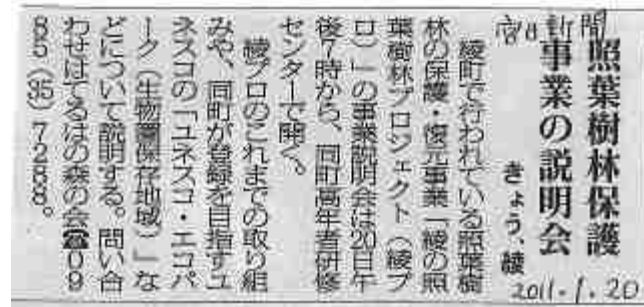
解体作業は今年いっばい続く。その後、耐風性を高め、手すり部分のデザインを変更するなどした橋を架ける。4月中のリニューアルオープンを目指す。

解体工事が本格的に始まり、中央の部分が撤去された照葉大吊橋。13日午後、綾町南俣

事に先立ち、昨年からの橋上部に資材運搬用のワイヤを張り、下部には落下物防止のためのネットを設置するなど準備を進めてきた。高さ142mの高所で行われる解体は、橋のバランスを崩さないよう中央部分から開始。新床板は連結してあったビスを外し、手すりには機械で切断し、解体したパーツをワイヤでつり上げて運んでいる。

架け替え工事本格化

宮日新聞 2011年1月14日 他



綾プロ事業説明会開催
宮日新聞 2011年1月20日



綾プロ事業説明会開催
宮日新聞 2011年1月23日

綾・照葉樹林復元プロジェクト

間伐材パネル商品化

高崎中のNPO法人・宮崎文化本舗（石田達也理事）に放置されることがあるた

長は、越前産伐材を使い、自然資源を活用・保全した高断熱の「暖房」
ったパネルとパネルスタン
ドの商品開発に取り組んで
いる。既に試作品が完成、
来年度の発売
を目標す。同
法人は、直営

来年度
発売へ

収益一部事業費に

する環境省のモデル実証事
業の補助金を得て、昨年から
インフレットを置いてたりで
る。パネルは縦約50cm、横

来年度
発売へ
収益一
部事業
費に

を拡大していき「きたい」としている。

2011.02.20 約73%。価格は今後決める
が、森林資源を有効活用し
ている点などをアピール
し、環境問題に取り組むN
PO法人や官公庁、イベン
ト会社などに売込み込んでい
く計画だ。

緑地の阻害樹林を保護・復元する「緑の無葉脱着プロジェクト」(宮崎市の「無葉脱着プロジェクト」の啓蒙書)を運営する宮崎市のNPO法人・宮崎文化本舗が、無葉脱着林園のたため代わしたるきなものを使った木土製金の開拓に取組んでいる。開伐材はいえ貴重な森林資源。これをうまく活用できれば脱プロの評判も高まるだろう。また、

鬼の洗濯岩

官報新聞 2011/3/4

宮崎文化本舗が問伐材を使
って商品化を目指すパネル
スタンドの試作品

5番が同町で展開する昭興樹林の保護・復元事業「綾プロ」で事務局・てるはの森の会を運営。パナエルなどの販売収入の一部は、綾プロの事業費に充てられ、森づくりに役立てる。

2005年から始まった綾プロでは、昭興樹林を復元するため、スギなどの人



間伐材パネル商品化

宮日新聞 2011 年 2 月 20 日 他



発 行：平成 23 年 7 月

発行者：綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画 連携会議

編 集：てるはの森の会

お問い合わせ先：

〒880-0014 宮崎県宮崎市鶴島 2 丁目 9-6 みやざき NPO ハウス 403 号室

TEL:0985-35-7288 FAX:0985-35-7289 電子メール:teruha@miyazaki-catv.ne.jp

ホームページ: <http://teruhanomori.com>